

べ 拒絶又は拒否の意志を表す(志) [会話] あかべえ 言うて、べ言うて するやんな (するでしょう)。いやや(だ)言うのを べや(だ) 言うて 目をこやつてして (こうして、下脛を指で下げて) 舌出して べ 言うて 嫌な事をなあ。

へい へいの表現はへえの表現に代る

へうち【名詞】 1) 鯉舟などで船の一番前で釣る人。腕達者の者が務める。へのり参照(志) 2) 船の先端に居て魚群を見つけ指揮をする人(志) [会話] 2) さいら (秋刀魚)の舟のへうちや(だ)言うて、船頭の事やなあ (です)。沖を、魚の行く方を おもてい (船首に) 行といて (行っておいて)。言うて、指揮する訳やわい (です)。たいしょ (大将) 言う訳や(で) 無いけど (が)、魚を見て あつちや (あちら) 行た よつて (から)、こつちや (こちら) から網やれ (入れよ)、潮な (が) こお いとるよつて (流れているから) こつちや うたな (こちらへ入れなければ) 言う 指揮をすんのを (するのを)。へうちしとると (していると) さいご (その時) それをせなはざんで (しなければなくて) 魚も見付けてなあ めえ (目)も よお (よく) 見える人やなけな (でなければ) はざんで。

へえ【屁】【名詞】 肛門より出るガス 臭気を伴う。へ(志(浜島)、鳥、桑市、鈴、一、松、多、上、阿、張、名、伊、北、尾、熊) [会話] へえへる へひる 言う人もおるしなあ (居ます)。そやけど (しかし) へえへつて言う方が多いなあ (多いです)。へえへり 言うのなあ (です)。へえへりへえへりだな (誰が) へつた、へつた方のつび (女陰)のけ (毛)、言うて 言いおつたなあ (言っていました)。みんな (皆)が 並んどて (で居て) へえへつても おんな (俺)が へつた言わんやんか (言いません) 誰も、そやもんで (それで) だな (誰が) へつたか判らせんと (判らないと) ぐるぐるになつて遊んでおつて (輪になつて遊んで居て) へえへり へえへりだな へつた へつた方のつびのけ 言うて 当たつたもんな (者が) へらんでも かずかんねやんかい (かこつけられるのです)。

へえ【名詞】 丙

へえ【名詞】 塀 内外を隔てる物(松、伊、尾、南)

べえ【名詞】 色好み 好色漢 すけべえ 助兵衛 好き

の転じたすけを擬人化した語 [会話] あの人は スケベエやわなあ (助兵衛です) 言うて。

べえ【名詞】 拒絶の意志表示の語(志(浜島、鶴方、神明、立神、国府、甲賀)、度、伊、南) [会話] ベエやれ (だ) 言うて、あかべえの尻を くろべな (が) 舐る言うて、あかべえやれ (だ) 言うて ややな (嫌な) 事なあ (です)。いややれ (嫌だ) 言うのを ベエやれ あかべえやれ 言うて。めえ (目) ひつちや けといて (開いておいて) 舌出して。

ぺえ【名詞】 1) 汚い物 2) 吐き出す事

へえかい(へいかい、へいくわい)【閉会】【名詞】 閉会 会を終わる事

へえかまされた 約束を破られた。騙された。[会話] 騙されたことを へエカマサレタ 言うんなあ (言うの) です。

へえかまされる 違約される。約束を破られる。[会話] へエカマサレル あれん (彼に) 言うて、すかんべこ かされるとなあ (約束破られると)。仕事でも 約束事でも すつこかされると (すつぽかされると) へエカマサレル言うて、裏切られた言う事やなあ (です)。すかする (空する) 言うねよつて (のだから) 騙されると。

へえかます【屁喚】 約束を守らない(鳥(鳥羽)、阿、張、名、多) [会話] へエカマス 言うて、へエカマス言うの(のです)。なんやかや (色々) と 約束しても 守らん (守らない) 時に言うなあ (言います)。

へえかんでけつかれ 雑言 相手をののしつて言う へえくらえ参照

へえき【名詞】【形容詞】 平気 へいき 物に動じないこと。心を平にして落ちついていること。[会話] へエキノへエザやれ (だ) 言うてなあ、言われても 気にかかりも なんもしやせん (なにもしない) 言う事 なあ (です)。そいなこたなあ (そんな事は) なんどお (なんだ) へエキノへエザやれ (だ) 言うて、なんも 気にしやせん事やわい (です)。そいなこた おら (俺は) なんも (少しも) 気にしやせん (しません) へエキでしとられ 言うてなあ。

へえきなもん 何とも感じない 厚かましい(志(布施田))

へえきのへえざ。へえきのへえざえもん【名詞】 へつちやら 厚顔 気にしない へえき参照(上、阿)

へえくさ。へえくそ【名詞】人を罵る語

へえくらえ。へえくろてけつかれ 人をののしる時に言う言葉(北、尾)【会話】へえかげ(嗅げ)言うにげ(人間)も、へえかんでけつかれ(嗅いでおけ)言うのも有るし、へエクラエ言うしなあ、腹の立つ時ん(に)へエクロテケツカレ(食べておれ)言うてなあよお言うね(よく言うのです)。

へえけ【名詞】平家 氏の一つ

へえこく 放屁する(上、阿)【会話】へえへるんを(屁するのを)へエ(屁)コク言うてなあ。へえ(屁)ひる言うね(言うのです)へえ(屁)ひつてまあ おとつしゃ(ああ、あ)言うて。

ぺえしたれ 吐いてやれ 吐き出せ

ぺえじゅ【名詞】米寿 八十八才になった祝い。米の字を分解すれば八十八になる事から(広辞苑)【会話】八十八の祝いをなあ ペエジュ。

へえしろ。へえしろこおばい【名詞】いやしい事 又その人。【会話】へエシロ言うのは いやし(いやしい)事、へエシロで なんでもやらかして(食べて)言うて。

へえせえ【名詞】平成 へいせい 年号 昭和の次

へえたい【名詞】兵隊 下級の軍人。兵。【会話】軍人をへエタイサン。昔や(は)へエタイサンや言うてなあ。

へえたいぐも(兵隊蜘蛛)【名詞】女郎蜘蛛(志、鳥、伊)【会話】蜘蛛。へエタイグモ言うけど(言います)あや(あれは)すじ(筋)の有るの(のが)そおかい(そうですか)。おっきい(大きい)筋な(が)有る あれ(あれを)巢の中い(に)入れたると(てやると)よお(よく)喧嘩するもんで(ので)。

へえたれ【名詞】よく放屁する者、また人をいやしめて言う語。【会話】へえ(屁)よけへるにげ(多くする人間)へエタレよ言うやんかいなあ(言います)。あや(彼は)へえばっかへんね(ばかりするのだ)へエタリやまあ言うてなあ。あい(間)無しん(に)へえへつとんね(屁しているのだ)言うて、わしや(私は)へえひりでなあ へえな(が)よけ(沢山)出てしよなないね(仕方がないので)言うて、へえひる子は まめな(丈夫だ)言うんよって(言うから)。

へえたれる 放屁する。【会話】へえひる(屁する)のもへエタレル、へえたれてまあ言うて。

へえでもない 1) 何ともない 気にならない 2) 簡単だ

へえてん【名詞】1) 閉店 その日の商売を終ること。

2) 店じまい その商売を終る事【会話】1)へエテン言うのは 店しめる時やんかあ(です)。まあへエテンやのん(だのに)行かんかい(行きなさい)言うてなあ、店 閉めても 頑張つとるとなあ(ていると)一日の商売な(が) 終って 店 閉めるのをなあ。2) しんしょ(身代)しもてすん(でも)失つてす(でも)へエテン言うわい(言います)。あの家もまあ 店な(が)はやらんでへエテンしたんてわれ(したそうだ)言う時な(が)有るんなあ(有りませ)店じまいすると。

へえどなり【名詞】塀隣 塀を隔てた隣の家【会話】へえな(塀が)一緒ん(に)なつとるとこ(なっている所)へエドナリ言うやんかな(言います)。続いとんのおを(ているのを)へえ(塀)で 仕切つてあんのをなあ(有るのを)。

へえともおもとらせん 平気だ 気にかからない

へえともない 何ともない 何とも思わない 平気だ(南、熊)【会話】そげな(そんな)事言うたてて(言つても)おら(俺は)へエトモナイワレ、なつとも(なんとも)無い言う事をなあ。気にならへんし(ならないし)怖くも無いし、おとしがらしたりすんのをなあ(怖がせたりするのを)そいな(そんな)事言うて おどしたてて(驚かしても)おら(俺は)へエトモナイワ、へえ(屁)ともおもとらせんわ(思っていない)言うてなあ なつともおもとらせん(なんとも思っていない)言うのなあ。

へえなとくろとれ 悪口雑言 へえかます参照

へえのつっぱり【名詞】役に立たない事。

へえのつっぱりにもならん 何の役にも立たない(度)【会話】何んにも 役ん(に)立たん(立たない)言う事を、へエノツッパリモナラン 言うの(のです)。なんを(何を)させても なんの役にも立たせんやんない(立たないでしょう)。あれせえ(しなさい)言うても それもよおせん(出来ません)此れもよおせん 言うて なんも(何も)よおせん人を、へエノツッパリモナラン言うの(のです)。まに合わん(役に立たない)人を。

ぺえばあ【名詞】紙やすり sandpaper の訛(上、阿)

へえはち(平八)【名詞】油虫の小さいもの ちゃばねごきぶり チャバネゴキブリ科の昆虫。体長11~12mmの小形のゴキブリ。体は扁平な楕円形で、褐色を帯び、前胸背面に黒い二本の縦すじがある。(志鳥(国崎)、松、度、伊、北、尾、南、熊)【会話】へエハチ言うのは あまめ(油虫)の、ごきぶりのこ

おみみたいな (子供のような) ちっさあいの (小さいの) ヘエハチ。あや (あれは) あれで ヘエハチ言うて ああ言うたて (種類、仲間) が有んのなあ (有るのです)。ごきぶりの子や (では) 無いんやろなあ (無いのでしょうか)。

へえひり【名詞】 よく放屁する人 へえへりに同じ

へえひりばば【名詞】 結婚式の時、嫁さんの失敗を自分が引き受ける役をする婦人。[会話] 嫁さんな (が) 出てく (出て行く) 時ん (に) ヘエヒリババ つけと け (ておけ) 言うて。嫁さんな (が) へえへつたると (屁してしまうと) 今のは私で御座います言うて。嫁さんな (が) 緊張しすぎて へえ (屁) へつたるやんない (でしょう)、そやもんでなあ (それで) ヘエヒリババ 言うのな (が) 有って、わがとはへらんねけど (自分はしないのだが) 今のは私で御座います言いおつたの (言って居たのです)。

へえひる 放屁する

ぺえぺえ【名詞】 ぺいぺい 地位の低い者や技量の劣っている者。初心者。新参者。(志(布施田)) [会話] ぺえぺえ 下っ端のもの (者) をなあ、そして へえたい (兵隊) でも 一番下のもの (者は) ぺっぺえ卒や (だ) 言うやんかい (言います) 新兵を ぺっぺえ卒や (だ) 言うてなあ。入ってすぐのおを (のを) まだあや (彼は) ぺっぺえ卒やもんなあ (だから) 言うてなあ。

へえへり【名詞】 よく放屁する者 へり、ふり、名詞又はそれに準ずる語について 複合語を作る 状態動作の仕方、有り方を表す。(志(浜島)) [会話] ヘエヘリ、屁ばっか (ばかり) へつとる人を ヘエヘリ。

へえへりこんぞお だなへつた おやにかずけてこなへつた やぶのなかのくそさがし とつてねぶるはいやしんぼ【俚諺】 集団の中で、放屁した人が判らぬ時の言葉

へえへりむし【名詞】 亀虫 放屁虫 (へひり虫) 触ると臭い臭いを出す昆虫。体から強い悪臭を出す。体長二~四種の害虫 [会話] ヘエヘリムシは 追うと 匍うごつと (度に) プップツ言うよおな。触ると どいらい (大変) 臭い嗅な (かざが) するし。

へえへる 放屁する [会話] へえすんのを (屁するのを) ヘエヘル言うね (言うのです)。へえひつてまあ おとっしや (ああ、あ) 言うてなあ。

ぺえや 否だ 拒絶の語 (志(布施田)、鳥、松、度、伊) [会話] おら、ややれ (俺は嫌だ) 言うね (言うのです) おら知らんわれ (俺は知らない) 言うのをな

あ ペエヤ言うてなあ、のも (お前も) 行かんかれ (行きなさい) 言うて おら、ややわれ (俺は嫌だ) 言うのをなあ ペエヤ おら (俺は) 言うてなあ 嫌や (だ) 言うのをなあ。

べえやれ 嫌だ [会話] あかべえはあつかんべえ そのにげ (人間) によって あかべえ言うのもあるし、そやけど (しかし) あかべえ言うのな (が) 多いなあ (です)。あかべえ言うて あかべえやれ (だ) 言うて それも あかべえも言わんと ペエヤレ (だ) 言うて。

へえわ【名詞】 へいわ 平和 変がなく穏やかな事

へえんもならせん。へえんもならん 何の役にも立たない (志(布施田))

べか【名詞】 底の広い船 べかぶねの略 (志(鶴方、志島、甲賀、甲賀、安乗)、鳥、北、度)

へがき【名詞】 蜘蛛の巣 [会話] ぐも (蜘蛛) の へんば (巣) でまあ言うて、ヘガキ言うてなあ。ぐも (蜘蛛) のヘガキな (が) 有って 頭い (へ) 被つてまあ言うて。ヘガキ ぐものヘガキ言うねんなあ (言うのです)。きい (木) から きいへ 張つとるとな あ (ていると) こやまあ (これは) だれんもにげな (誰も人間が) 通つてねえわ (ない)、此処い (へ) 行くと、なんかあられ (なにか有る) 言うて、にげな (人が) 通つた後なら へんば (巣) は取つたんねけど (てやるのだが)、ぐものへんばな (が) 有ると こや (これは) あらとこやなあ (新しい所だ) 言うて、なんやかや (色々) 探しもん (者) する時や (は) 言よおつたなあ (言っていました)。

へがす【他サ五】 剥がす (桑市)

ぺかぺか【副詞】 厚さの薄い状態 [会話] あんまりう っすいと (あまり薄いと) うっすうて (薄くて) びら びらやれ (だ)、うっすうて (薄くて) ぺかぺかやれ (だ) 地な (が) うっすうて ぺかぺかやれ 言う時 な (が) 有るわい (有ります)。

へかます 1) 放屁して相手に嗅がす。2) 約束を破る。 [会話] ¹⁾ へカマス言うのも 一緒やわいなあ (です)。へえかがしたろん (嗅がしてやるぞ) 言うて、へえかぜ (嗅ぎなさい) 言うのも一緒やわいなあ (です)。へえかんでけつかれ (屁嗅いでおれ) へえなと (でも) かんでけつかれ言うて ごおなわくとなあ (腹が立つと)。

へがれる【自ラ下一】 1) 強く叱られる。2) 剥げる 3) 削げる 4) 暴利をとられる [会話] ²⁾ 剥いだれ (でやれ) 言うのを、まあ そや (それ) うっすう

(薄く)それも はんだらな (はいでやらなければ) あつつて (厚くて) 乾わかせんやんかあ (ないでない) 言うて。へガレル言うのは 剥がれる 剥ぐ 言うのなあ、剥ぐ 言うのも へぐ 言うのも 一緒やけどなあ (だが)。

へがんこ 【名詞】舟の生簀の小さいもの かんこ 参照 (志 (布施田)、鳥) [会話] 舟のかんこ。おもがんこと へガンコと有って、おもがんこ言うな (のは) おっきいので (大きいので) へガンコ言うな ちっちゃいの (小さいのです)。

へぎ (へげ) 【名詞】松の木を薄く削ったもの。火をつけるのに用いる。じん参照 [会話] じんな (松脂)があると、ぢつきん (すぐに) 火な (が) つくもんで (ので) へぎに削つて (ておいて)、付け木の代りん (に) しおった (して居ました)。

へぎだす 捻り出す (志 (布施田)) [会話] へギダス 言うのは 皆が仲間 しゅうせん (集銭・皆が金を出し合って何かをする事) 出し合ったり、なんやかやするやんな (でしょう)。そんなかから (その中から) ちよいと (少し) 取る事な (が) 有るやんな (有るでしょう)。それをへぎダス。ほいて (そうして) 百円なら百円につまつとんのを (なつて居るのを) へギダシとこやんかれ (ておきましょう) 言うて、十円ばか (ばかり) へギダシとこやんか 言うて そお言う時に使うのなあ (のです)。仲間のもん (物) を ちよいと (少し) こつちやへ (こちらへ) のけとこや (ておきましょう) 言うのを、へギダシとコヤ (ておきましょう) 言うて。後々使うためん (に) どんだけか (どれだけか) へギダシといて (ておいて) しよおや (しましよう) 言う事やなあ (です)。

へきつとけ 1) 区別しておけ 区切りしておけ 2) 仲間はずれにしておけ。除いておけ。[会話] 1) 仕切ったんのを (てやるのを) へキットケ、きり (区別) 切つとけ (ておけ) 言うのをなあ。あの家んのおと (ののと) 一緒ん (に) なつてくとはざんよつて (なつて行くといけないから) へキットケ 言うてなあ、垣みたよん (のように) して へキットカナ (ておかなければ) そや (それは) 一緒ん (に) なつてくど (行くぞ) 言うてなあ。

へきびょういん (避病院) 【名詞】伝染病院 避病院 [会話] へキビョウインは 今し (今は) 墓ん (に) なつとるけど (なつているけれど)、昔 隔離場な (が) 有って、わしら (私達) 朝鮮から来ると入りおつたの (入つて居たのです)。みつかあつ (三日ず

つ) へキビョウインへ入りよつたの (入つて居たのです)。土産貰うのな (のが) 嬉しので (嬉しいので)、へキビョウインいとる (行つて居る) おぼやんなとこ い (小母さんの所へ) じよおつく (いつも) 行きよつたの (行つて居たのです)。よさや (夜は) 抜けて 来て 家ん (に) 寝といて (寝ておいて) 又 朝 役場の人ら (が) 見に来んねやんかい (来るのです)。そすと (そうすると) いて (行つて) 寝とんねてや (寝ているのです)。よさや (夜は) 柿 買いんといて (買ひに行つて) 喰うたり、へキビョウイン入つておつて (居て)、隔離されておつて (いながら)、そげんして (そんなにして) よさや 家へ抜けてたり (いつたり) しよおつたね (して居たのです)。みつかあつ (三日ずつ) じよおつくなあ (いつも) ほりこまれよ おつたね (放り込まれて居ました)。朝鮮から来ると あつちやは (あちらは) わりい (悪い) 病気な (が) はやりよつた (流行して居た)。赤痢や (だ) コレヤ (だ) 言うて、そやもんで (だから) 来ると 予防に みつかあつ あすこい (あそこへ) 放り込み よおつたね。

へぎもち (折ぎ餅) 【名詞】餅を薄く切つて乾かしたものの。かき餅。へぐ参照 (志 (浜島、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥、桑郡、松、多、度、伊、南) [会話] へギモチ 言うのは 餅をうつすう (薄く) へんでするもんで (削いであるので) へギモチ 言うんやんかな (言うのです)。うつすう 切つて 此の位ばかの (ばかり、五耗以下の厚さのを) へんで 乾かしといて (ておいて) それを かなみ (金網) で 焼いて 食べるのを へギモチ 言うの (のです)。

へきられた 除外された。仲間外れにされた。[会話] へキラレタ 言うの、場所を言うの。あいらげ (彼の) 家と へキつカナ (ておかなければ) はざん (駄目だ) 言うと、まあ おらげ (俺の家) へキラレタ よお言うて、へキラレタ 言うと そちへ 入つて行かれやへん (行けない) 言う時やなあ (です)。

へきり (部切) 【名詞】区切り 仕切り へき 壁 かべ しきり (南) [会話] へキり 境界をするのを へキり 言うの (のです)。此処 あんたとこ (貴方) のやなあ (です) 此処 私んとこ (の所) のやなあ (だ) 言うのを、へキりせえ (しなさい) 言うの な あ (のです)。境界の事とか ほんで (それで) なんやかや物置くの (の) へきつて置けよお (置きなさい) 言うて。

へきる (部切) 【他ラ五】 隔てる 区別する (志 (布施

田、志島)、南、熊) [会話] ヘキル言うのは きちつと (きっちり) と 区別しとく (しておく) のを。

へぐ (剥ぐ) (折ぐ) 【他ガ五】 はぐ むく 削りとする
平たく薄く削る。少なくする。へずる。(志 (布施田、
鶴方、神明、立神、志島)) [会話] 薄っすう (薄く) 切るのを へぐ言うの (の) です。鮭のこお (具)、
へぐ言うのも さしみを薄っすう 鮭のこおにする時は。
へぎ餅やどきでも (なども) 削るよ おん (に) して
する もんで (ので) 言うんかいなあ (言うのでしょうか)
へぎ餅言うて 薄っすうするだけやなしん (でなくて) 又
剥いで切るのを 削るよおにして するの
を へぐ言う意味やんかい (です)。

へくさ。へくそ (屁糞) 【名詞】 1) 人をののしって言う語
2) ひどくつまらない物 [会話] 1) へくソよ
(奴) 言うてなあ なんも (なににも) ならんもん
(者) を言うなあ、へくソよ (奴) 尻糞よ (め) 言う
て、しりくさ言うたりなあ。他の もんな (者が) 仕事
よおせざったり (出来なかつたり) どんな (下手) 事
すると しりくさ まあ そっちやい (そちらへ) 行
てけつかれ (行っておれ) へえんも (屁にも) ならせ
んねよって (ならないのだから)。

へくそもならん 役に立たない

へげ 【名詞】 小さく削った木片 火を付けるのに用いる
[会話] へげ言うな (のは) 鉋で うっすうへぐ (薄く削る) のを へげ言うの (の) です。

へげ 【名詞】 駄目 (志 (布施田))

へげたれ 【名詞】 人をののしって言う語 意気地無し
(志 (布施田)、伊) [会話] へげタレ言う と とろくさい
(鈍い) 人の事を言うの (の) です。鈍い人の事を なあ
(です)。どこやかや (何処彼処) あそこへ行け
言うて、おや (俺は) あいなとこ (所) は おとしよ
ってよおせん (怖いから出来ない) とか言うて、
こおおてよおせん (怖くて出来ない) 言う事を、おとし
言うんやんな (言うでしょう)。おやまあ (俺は)
おとしよって そげな (そんな) 事 よおせん 言う や
んない (でしょう)。おとしや (やれやれ) あんだ
けの事 (あれだけの事) よおせんのか (出来ないの
か) へげタリヤ (へげたれめ) 言うて 言うんやんか (言
います)。此れ したれ (してやれ) 言う と おや (俺
は) あいなもんよおせん (あんなもの出来ない) とか、
あそこへ行け言う と あそこ おとしよって よお行
かん 言う やんない (でしょう)。そすと (そうする
と) へげタレやなあ (だ) 言うて 言うの (の) です。
意気地無し言うよ おなもんや (もの) です。おじくそ

とか。

へげたれる 【自ラ下一】 気力を失う 元気をなくす し
よげる

へげてた 削れていった 細くなった

へげる 【自下ラ一】 薄く削られる はげる (桑市) [会
話] へゲル そげてたない (細くなった) 言うて。

へこたれる 【自ラ下一】 1) 気力が無くなって動けなく
なる。へたばる。2) 気力がない いくじなし 3)
いじける [会話] 2) へコタレル 言うのは どこやか
や (何処かへ) 行け言うても、おら (俺は) よお行か
んわれ (よく行けません) 言うて、だらだら しとる
(して居る) 言うか もじもじ しとる 言うか、へコタ
レトシネ (て居るのだ) 言うて。はっきり せん (しな
い) 事を。人な (が) 皆 いても (行っても) おら
(俺) も 行きたいけど (けれど) よお行かん (行け
ない)、よおせん 言うて しとんのを (して居る) へ
コタレル。元氣な (が) 無しん (無くて)。

へこび 【名詞】 兵児帯 へこびの略

へこます 【他サ五】 1) へこむ様にする 2) 相手をや
つつける

へこみ 【名詞】 くぼみ

へこむ 【自マ五】 くぼむ

ぺこんぺこん 【名詞】 【副詞】 1) 玩具 めくさ
れ 2) 薄いものが歪んだ状態 3) 磯の貝 [会話] 2)
こやまあ (これは) ペコンペコンに な
って たない (な
って行った) 言うて。ブリキ ても なんでも (なにで
も) いびつん (凹凸に) な
って くと (なって行くと)
ぺこぺこに な
って たない 言うて。ブリキ や (とか)
あいなもん (あんな物) 押し
たり 重たいもん (物)
すると へっこん で
く
やんない (へこむでしょう) ま
あ こや (これは) ぺこ
ぺこに した
た
ない (してしま
った) 言うてなあ。3) ペコン
ペコン 言う 貝な (が) 有
って お多福 みたよん しと
んの なあ (のようにして
いるのです)。¹⁾ ペコン
ペコン 言うて ガラス の
うっす
い のおえ (薄いの) ええ
な (柄が) つい
と
て (付い
ていて) それ ふう
ふう すると ペコン
ペコン 言うて
なあ そんな (それが) ええ
(よい) のでなあ、それ
を 買
い
お
た
わ
い (買っていました)。

へさえこむ (へさへこむ) 1) 押さえる 押さえつける
(多) 2) 強姦する [会話] 2) へサエコム 言うてな
あ。男の人 ら な なあ (が) おなご (女) の
こお (子)
とか 後家 とか 一人 もん (者) を なあ、押
さ
え
て ま
あ
言
う
て。強姦 する よお な もん や なあ (もの) です へ
サエコム 言うのは。あの人 押 さ えん く んど (に
来る

ぞ) おとしんどよお (怖いのだぞ) 言うてなあ。盆で踊つとても (ていても) かざきんくんね (担いに来るのです)、ひっかづいて (担って行って) 浜の裾い(へ) かづかれてくと (担われて行くと) あなばち (処女) や みつばちや言うて。

へさえつける (へさへつける) (圧付) 【他カ下一】 1) 押さえつける。押しつける (志 (浜島)、員、鈴市、松、多、伊、尾、熊) 2) 強姦する [会話] 1) 押へる事 へサエル言うて。2) 男と女でも へサエラレテ 言うやんかい (言います)。男な (が) 来て 女をなんするやんか (します)。それを へサエツケル言うの (のです)。何処其処で あの人に へサエラレタ ンテワイ (そうだ) 言うて 言うの (のです)。1) 漬けもん (物) 石でおそいせえ (重しなさい) 言うてそこへ へサエツケトケ (ておけ) とか おさえつけ とけ言うのを へさえとけ言うの。

へさえとけ 押さえておけ へさえつける参照

へさえられた 1) 押さえられた 2) 強姦された へさえつける参照

へさえる (圧) 【他ハ下一】 1) 押さえる へし、圧すの連用語からおもし、へす、押しつける、おさへる、圧倒する へこませる。(志 (浜島、布施田、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、員、鈴市、安、津市、松、多、上、阿、張、度、伊、北、尾) 2) 強姦する

へさき 【名詞】 船の最も先端部 船首 (志、熊) [会話] おもて (船首) の へサキ言うて とっぱな (一番端) をなあ。

へしあう (へしあふ) (圧合) 互に押し合う へすは押す

へしおる (へしをる) (押し折る) 【他ラ五】 折り曲げるようにして折る 押しつけて折る たわめて折る 力を入れて折る (志 (布施田)、鳥 (加茂)) [会話] ヘシオル言うのも 簡単に 折んのやなしん (折るのでなくて) 力 入れて ヘシオットケ (ておけ) 言うて そいなもん (そんな物) ヘシオッタランカレ (てやりなさい) 言うて、よお折らんわい (折れません) 言うて、力 入れてヘシオットケ言うやんかい (言います)。力 入れてせえ (しんさい) 言う意味や(です)。ヘシオッタロカ (折ってやろうか) 言うて。喧嘩すると最後 (その時) どおぼね (背骨) ヘシオッタロカ (てやろうか) 言うて 喧嘩しとる (して居る) 人な (が) 有るやんかな (有ります)。

へしおれる (圧折) 【自ラ下一】 折れる [会話] 籠の

底の竹が ヘシヨレテ (折れていって) 破れる。

へしこまれる 押し込まれる

へしこむ (圧込) 【他マ下一】 押し込む (志 (浜島、布施田)、南、熊、員) [会話] 押し込む事 ヘシコム 言うの (のです)。押し込んどけ (ておけ) 言うのも ヘシコンドケ 言うて。ヘシコンドク (ておけ) 言う事は ちょっと (少し) 力は入る事やなあ (です)。押し入れへ ヘシコンドケ (ておけ) 言うて、入りぬく うても (入りぬくくても) 無理から入れとけ 言うよおな時に ヘシコンドケ 言うのなあ (のです)。ねじ込んどけとか。

へしこめる 無理に詰める 押し込む

へしつける (圧付) 【他カ下一】 強く押さえつける 押しつける (志 (布施田)) [会話] ヘシツケテ もつて (よそつて) 言うて。押さえる言うのをなあ、飯もふあつと ひとしゃくし (一杓子) もやええねけど (よそえばよいのだが) それを 押して もんのなあ (よそうのです) ヘシツケテもる (よそう) 言うて。へさえつけて 一杯食うね (食べるのだ) 言うて、押さえんのを (るのを) ヘシツケル言うね (言うのです)。飯も もやげといて (盛り上げておいて) へサエテ (押さえて) ヘシコンで言うてなあ もやげてへ さえとけ (盛り上げて押さえておけ) 言よおったやんかい (言っていました)。

へしつぶす (圧潰) 【他サ五】 押し潰す

へしまげる (圧曲) 1) 折り曲げる 押し曲げる (志 (鶴方、神明、立神、甲賀、国府)) 2) 言い負かす [会話] 2) ヘシマゲラレタ 言うて、あんな (彼が) 口な (が) えろおて (大変で) 言いまげられたよお (言い負けた) 言うて。ヘシマゲラレタヨオ言うて、やりこめられたてやら (とか) 言うて。ヘシマゲル言うのは やりこめる事やなあ (です)。ちょいと (少し) 言うとのやなしん (言っているのでなくて) ものすごお (大変) ひつこお (しつこく) 言うて する時ん (に)。1) 物、曲げるのでも ヘシマゲンネけどな (るのだが) ひんまげとけ (ておけ) 言うてなあ、ぼお (棒) でも 曲げる時やなあ (は) ひんまげたたよお (てしまった) 言うてなあ。

へしやい (へしあい、へしあひ) (圧合) 【名詞】 互に力を込めて押し合う事。[会話] おしやい ヘシヤイ 言うてな、人な (が) つんどる (混雑している) 時ん (に) 先い (へ) 行けまあ (行きなさい) 言うて、押すのをなあ おしやいヘシヤイして言うやんかい (言います)。まあ ぎちづみで (一杯で) おしやいヘシ

ヤイヤったよお (だった) 言うてなあ。
へしやう (へしあう、へしあふ) 【自ハ五】押し合う
べしやきむぎ【名詞】押し潰した麦 押し麦 [会話]
びしやき麦言うのをなあ ベシヤキムギ言う人も有る
しなあ (有ります)。びしやけとるもんで (潰れているので) びしやき麦言うねけど (言うのだが) つぶし
麦言うにげ (人間) も有るしなあ。
べしやく 潰す 押し潰す びしやく
べしやけとる びしやけている 潰れている [会話]
びしやけとる (ている) 言わんと (言わずに)、ベシ
ヤケトル言う人も有るわいなあ (有ります)。
べしやける 潰れる (三重県)
へしよって 折って [会話] だいご合戦 (大根合戦)
すると、おらげの (俺家) 畑で ぎきら (子供等) が
だいご合戦して だいご (大根) 皆 ヘシヨッテ言う
て、百姓しとる人らな 怒りおったね (怒って居たの
です)。
へしよつとけ 折っておけ [会話] 物を折る時も 紙
やどけ (など) 二つん (に) おつとけ (折っておけ)
言うてなあ。三つん (に) おつとけ とか、ヘシヨッ
トケ言うねんなあ (言うのです) 二つん (に) ヘシヨ
ッテナレ (です) 言うて。
へしよれてく 折れて行く
へしよれてた 折れた 折れていった
へしよれる 折れる へしおれる へしよる参照
へしよる【自ラ下一】折る (張、名) [会話] ヘシヨル。
折る事をなあ。こえ (肥料) 担のとたら (ていたら)
おくな (天秤棒が) ヘシヨレテテ (ていって) こえ
(肥料) まけたたよお (まけてしまった) 言うて、ヘ
シヨル言う時は折るで へしよれる言うのは 一人折
れてたのおを (折れていったのを) わがと (自分が)
曲げて へしおんな (折るのは) へしよつた (やっ
た) 言うてなあ。
へす (庄) 【他サ五】圧す 押しつける おさえる へ
こませる へさえこむ (志 (布施田)) [会話] おさ
えつける言うの (のです) へス言うね (のです)。
へずめる 少なくする 削る 削り取る へつる
(志 (布施田、鶴方、神明、甲賀、国府、安乘)) [会
話] ヘズメル言うのは ちよいちよいつ (少しづ
つ) 少のお (少なく) する言うのを、ヘズメル言うの
なあ (のです)。ヘズメトケ (ておけ) 言うのも と
お (十) 有るもん (物) なら、ここのつ (九) にして
ヘズメトケ 言う意味やなあ (です)。茶碗へ御飯な
んか よそたり (よそつたり) した時でも、それまあ

ちよいと (少し) ヘズメトイテクレ (ておいて下さ
い) 言うて、ちよいと少のおもって (少なくよそつ
て) 呉れるのなあ (のです)。
へずる (へづる) (折) 【他ラ五】一部分を取る けずり
減す 省略する (志 (志島)、員、上、阿)
へそ【名詞】臍曲がり 意地悪い人 [会話] あや
(彼は) ヘソやどお (だぞ) 言うて ヘソマガリやど
お 言うてなあ、頑固なおをなあ (のを) あや ヘ
ソマガリで だな (誰が) なつと言うたて (なんと
言っても) 聞こかれ (聞かない) 言うて、そして人よ
り変った事するとなあ あや ヘソマガリやどお 言
うてなあ。
へそ (臍) 【名詞】魚の心臓 (志、尾、南)
へそくり (臍繰り) 【名詞】臍くり金の略 綜麻 (へ
そ) を繰ってためた金の意味で臍はその当字 主に主
婦が内職したり儉約したりして内緒でためた金 [会
話] お金をためて 内緒にしとくのを (しておくの
を) ヘソクリ言うの (のです)。
へそなさいこくする おかしくてたまらない [会話]
わろて (笑って) わろて 笑いきってく (きって行
く) 時を、ヘソナサイコクスル言うて、おかして (お
かしくて) おかして ヘソナサイコクスル程 わろた
よお (笑った) 言うて よけわろた (沢山笑った) 時
ん (に) 言うのなあ (です)。
へそまがり【名詞】性格がすなおでないこと。ひねくれ
ていること、又そのような人 [会話] ぐち (頑固)
で まあ、人の言う事聞かせん (聞かない) の あや
(彼は) ヘソマガリで、だな (誰が) なつと言うたて
て (なんと言っても) 聞こかれ (聞かない) 言うてな
あ わがと (自分が) 思うよおせな (ようにしなけ
れば)。人の言う事聞かせん (聞かない) 人な (が)
西や (が) 言や (言えば) 東や (だ) 言うてなあ。
へそやど 臍曲がりだ 根性がひねくれている人だ
[会話] 意地のわりのおを (悪いのを) あや (彼は)
ヘソヤド言うてな。こんじよくさり (根性の悪い) 曲
がらんとさいご (その時) こんじよくさりて あや
(彼は) 臍曲がりやれ (だ) 言うてなあ。
へそんと【名詞】懐中時計 [会話] セコントやなしに
(懐中時計でなくて) ヘソント吊げて あやあれ (あ
れ) 言うて。
へた (辺)。べた【名詞】1) 端 へり 側方 方向
(志 (片田、浜島、鶴方、神明、志島、甲賀)、鳥
(鳥羽)) 2) 海の陸の近い所 波打ちぎわ (志 (波
切)、鳥 (国崎、安楽島、鳥)、度、北) [会話] 1)

ヘタ、はし (端)。布の端の事を ヘタも切っとけま
あ (切っておきなさい) 言うなあ (言います)。²⁾ 海
もこちらの地もと に おんのを (居るのを) ヘタ行
く言う。¹⁾ ベタ言うて こちらベタ あちらベタ言う
て あんた (貴方) の方ベタへ 寄せとけ (ておけ)
とか わし (私) の方ベタへ 置きかいね (置きましょ
うか) 言うて ヘタも 一緒の事や (です)。

へた (褥) 【名詞】 1) 腫れ物の痂皮 2) 果物 野菜
の萼 (志 (甲賀))

べた 【名詞】 1) 側方 あっちゃべた (志 (鶴方、布施
田、片田)、鳥、員、松、度、北、尾、南、熊) 2)
残るくまなく 一面 全面 全くの、すべて 形容詞
(南) 3) まつわりつく [会話] ²⁾ ベタ一面言うて
ベタベタになつとる (なつて居る) 言うのも有るし
(有ります)。³⁾ ほいて (そうして) それよけ (それ
より) 子供らな (が) 甘えて ひつついて来るやんな
(でしょう) そすと (すると) よけ (あまり) ベタツ
クなまあ言うて。男とおなご (女) の 関係でも よ
おベタツクなあ (よくべたつきます) あの人ら いや
らしなあ (嫌だ) ベタベタと ほんどん (本当に) 言
うて。まつわりつく、側へ近よって来て ひつついて
来る事を ベタベタと。

べた 【形容詞】 平たい (志)

べた 【名詞】 1) 女の子 2) 器量の悪い女の人 [会
話] ¹⁾ ベタやなあ (だ) 言うて おなご (女) の こ
お (子) もおけると (産むと)。

べたあし 【名詞】 扁平足 足蹠のくぼみの無い人
(張) [会話] 土つかずな (が) 無いにげなあ (人間
です) ベタアシ。 みともないなあ (見苦しい) あい
な (あんな) 足なあ。 ぴったんと 板 歩かすよんし
とんね (ようにしているのです)。ベタアシのにげ
(人間) 足痛めやせん (痛めません) 土つかずな
(が) よけ (沢山) 有るもん (者は) をなあ、たつか
いとこ (高い所) え よけ (沢山) 力な (が) 行くや
んない (行くでしょう) 長道歩ると 足 痛めんね
(痛めるのです)。

へたあるき 【名詞】 波打ち際を歩く事 特に貝殻の採
取を目的として歩く事

…べたい 【接尾語】 形容詞につき状態を表す チベタイ
(冷たい) ひらベタイ (平だ) (志、鳥、伊賀地方)

べたいちめん 【名詞】 地面一杯 物の表面一杯 (上、
阿) [会話] ベタイチメン言うんなあ (のに) ベタ
イチメンに 雪な (が) 積つたなあ、ベタイチメンに
花な (が) 咲いた言うたりなあ。麦でも ベタイチメ

ンに あかろんどんねよお (熟しているのだ) 言うた
りなあ。

へたがけ 【名詞】 1) 海老網漁で禁漁区の海老を獲ること 2) 陸の近くで海老網漁をすること [会話] ²⁾
大島から こっちゃい (こちらへ) かけんの (るの
を) ヘタガケ、大島から 沖い (へ) 行くと おきが
けやけどな (です)。大島からないざ (渚) え かけ
ん (る) のはなあ ヘタガケで、ぢい (地) へ ちっ
かい (近い) 方なあ (が) へた、磯行くの 大島より
たか (陸に近い方) をへた言うてなあ。

へたかづき 【名詞】 陸の近くでする海女作業 (志)

へたくさ。へたくそ (下手糞) 【名詞】 【形容詞】 下手な
事、又その人 (志 (国府、浜島)) [会話] ヘタクソ
を言うのなあ (のです)。ヘタクソを言うねけど (言
うのですが)、下手な事をしとると (して居ると) ヘ
タクサ言うて 言う時も有るし (有ります) ヘタクソ
やなあ (だ) 言う時も有るし、同じ意味やけど (で
す)。言い方がその人によって、おおた (おお) ヘ
タクソやわい (です) 言う人も有るし、ヘタクサ言うて
言う人も有るしな (有ります)。ヘタクソ言うより
ヘタクサ言う時の方がわりの (悪いのです)。相手に
きつつう当んの (当るのです)、ヘタクソやなあ
(だ) 言うのは、優しんけど (優しいが) ヘタクサ言
うて言うやんない (言うでしょう)、そや (それは)
どいらい (大変) 頭に 来たよおな時になあ (です)、
言われる人も ものすごお (ものすごく) きつつう当
るわな (当ります)。親がこお (子供) 怒る時も ヘ
タクサ言うて 目上のもん (者) が目下のもん (者)
に 言う言葉なあ (です)。

べたぐもり 【名詞】 全天曇りの状態 (志 (布施田)) [会
話] ものすごお (ものすごく) 曇つとんの (て居る
のを) ベタグモリ言うの (のです)、真つ暗ん (に)
なつてくんの (来るの)、一面に曇つとるやんない
(て居るでしょう) それを ベタグモリやなあ (で
す)。

べたこ 【形容詞】 べた一面 厚く隙間のないさま べた
べた参照 [会話] 化粧するのでも よけ (沢山) こ
いしとると (濃くしていると) ベタコン (に) しとん
ねよお (しているのだ) 言うて。

べたずわり 【名詞】 尻を床につけ両足を広げて座ること
べつたり参照 (熊) [会話] 正座せんと (せずに) 尻
を畳むいて (向かって) どんと落として べたんとし
て、足は 両足ながら (共) とんび (薦) の羽広げた
よおんしとるやんない (ようにしているでしょう) そ

れを ベタズワリ。

べたつく【自力五】 1) 粘り気がある。湿り気がある。
(上、阿) 2) 人につきまとう [会話] 1) べたべたと まあ ベタツイテ 気持ちな (が) わりよななあ (悪いようだ) 言うてなあ。なんでも (なにでも) ひつつくと さいご (その時) べたべたと まあ さんざりしとるもん (している物が) ほしなあ (欲しい) 言うてなあ。さらっとしとると (していると) さんざりしとるもんや 言うてなあ、ねちゃねちゃしとると (していると) べたべたして言うて。

へだて【隔】【名詞】 塀 隔てる事、またその物、垣

へだてる【他タ下一】 1) さへぎる 2) 仲間に入れない

へたど【名詞】 海岸近くで作業する海女 (志) [会話] へたド言うのは、大島へ行かんと (行かずに) こちらで かずいとる (潜って居る) 人を へたド言う (言います)。浜から泳いでいたり (行ったり)、船に乗っていても (行っても) 大島い (へ) 行かんと (行かずに) そこらの (その辺の) 沖の方でおるやんない (居るでしょう) それ へたドや (と) 言うの (のです)。

べたなぎ【名詞】 少しも風、波のない状態 [会話] ものすごく (ものすごく) よおなんどんのを (よく風いで居るのを) 風もなんも (少しも、全く) 無いやんな (でしょう) ほっと (すると) ベタナギで 油船な (が) まけたたよおなあ (転覆してしまったようだ) 言うて。油な (が) しとると (して居ると) すべてと こな (所が) 有るやんかな (有ります)。油をやると (引くと) そやもんで (それで) 今日^はベタナギで 油船な (が) 難船したよおなあ まけたよおなあ 言うて。まけた言うのは ひっくりかえったとか、ひっ繰り返すとか言うの (のです)。

へたなみ【名詞】 海岸近くのみ波が高い事 (志 (布施田))

へたばった 疲れた。弱って動けなくなる。(志 (布施田)) [会話] あんまり (あまり) 疲れた時ん (に) へたバツタ、今日は えろおて (大変で) えろおて へたバツタ言うて ものすごくえらい (物凄く大変な) 時を言うの。

へたばりこむ 疲れ果てる へたりこむ参照

へたばる【自ラ五】 疲れる、疲れて座り込む 弱る 疲れはてる (志 (浜島)、鳥 (鳥羽)) [会話] へたバル 言うのは くたばる (疲れる) 事を言うの (のです)。くたびれる (くたぶれる、疲れる) 事を へたバツタ 言うのなあ (のです)。くたびれて くたびれてすん

のを (するのを) へたバツタヨオ言うて、ものすごくお、えらい (ものすごく大変な) 仕事して ものすごくお疲れた時ん (に) へたバル言うて。

べたふく【名詞】 不美人 見ぬくい顔の女性 どたふく参照 [会話] どたふく言うて おなごやわい (女です) 顔な (が) どいろおて (大きくて) どたふくやて やら (だとか) ベタフクやて やら (だとか)。

べたべた【副詞】 粘りつくさま まといつくさま 男女がべたつくさま、粘っこい液汁を厚く塗るさま。一面に紙を貼りつけるさま べた すき間の無いさま 一面に広がって居るさま、名詞又はそれに準ずる語について。すっかり すべての意を表す。(志 (布施田)) [会話] 男とおなごな (女が) ベタベタしとる (している)、いちやいちゃしとんのおも (しているのも) おんなし (同じ) 意味やけどなあ (です)。飯でも、さと (砂糖) でも 粘つとんのおを (て居るのを) ベタベタなつとんない (なつて居る) 言うて、密柑剥いても 汁な (が) よけ (沢山) 出てくんの有るやんない (来るのが有るでしょう)、ベタベタになった よお (なりました)、汁な (が) よけ (沢山) 出て言うて 言うの (のです)。子供らな (が) 甘えとんのも (て居るのも) ベタベタ言うしなあ (言います)。化粧するのでも よけ (沢山) こいしとると (濃くして居ると) ベタコに塗つとんねよお (て居るのだ) 言うて。白粉がめ (甕) から 抜け出して来たよおな あ (ようだ) 言うて。真つ白ん (に) つけとる (つけて居る) 人な (が) 有ると、おおた (おお) 見よまあ (見なさい) ベタコにして 白粉がめから抜け出した よおななあ言うて。白壁塗ったよおん (に) して 白粉がめから抜け出したよおな (ようだ) 言うて。

べたぼれ【惚】【名詞】 心底惚れている事

へたりこむ【自マ五】 疲れる 疲れて立てなくなる [会話] へたリコンだよお言うて、へたばった言うなあ (言います)。疲れた時ん (に) あんまりえろおて (あまり大変で) へたばったよお言うてなあ、あんまり 疲れた時ん (に) まあ 今日^はえろおて へたばったよお言うて ものすごくえらい (物凄く大変な) 時を言うの。

へたる【自ラ五】 1) 疲れる (志 (布施田、鶴方、神明、立神) 多、上、阿、張、南、熊) 2) 古くなる 役に立たない 弾力性が無くなる

べたんこ【形容詞】 押し潰されて平くなっているさま [会話] ベタンコン (に) したたれ (してしまった) まあ、そやれ (それ) 押さえて言うてなあ。荒布 積

んでも はっしやんどるおりん (乾いている時に) 積むと たっかいねけど (高いのだが)、しとって (湿気を帯びる) 来て 沈んでくと (でいくと) ペタンコン (に)、なつたない (なつて行つた) 言うてまあ、がさがさしとんの (しているのを) 積むと 二、三日すると しゅつとして ペタンコン (に)。おおたえれ あんげんたっかいの (あんなに高いの) ペタンコン (に) なつたね (なつたのだ) 盗んでた (でいった) くらいやなあ (だ) 言うて。

へち (辺) (端) 【名詞】 物のふち、へり、はじ へた (志 (浜島、鶴方、神明、立神、国府、安乗)、鳥 (鳥羽)、飯、松、度、伊、北、尾、南、熊) [会話] へりも へちも へちも一緒やなあ (です) へり 畳のへり。

へちかんどる 歪んで居る [会話] 産なたかい (難産) 人らな (が) しぎつたて (遮ぎってしまったて)、頭な (が) 瓢箪みたいにしとられ (のようにしている) へちカンドラレ (でいる) 言うて。

へちま (糸瓜) 【名詞】 1) 海綿 (志 (片田、志島、甲賀)、鳥 (菅島)、南) 2) 糸瓜 [会話] ① へちま言うて 皮剥いたると (てやると) すいすいになつとる (なつて居る) それを言うんやんか (言うのです) へちま言うて。顔の長い人見ると へちまみたいな (のような) 顔しとんなあ (して居る) 言うし (言います)。② 海綿も へちまな (が) 有るなあ (有ります)。へちま言うて 有る すいすいのな (が)。それで ながしもん (流し物) あるたり (洗つたり)。③ 昔はへちまをよけ (沢山) 作つて、それで お茶碗洗いおつたねやんかな (洗つて居たのです)。かめだわし (亀の子だわし) や言うて そいなもん無いし (そんな物有りません) 昔は縄のおといて (なつて) くるくと 捲きつけて 鍋の炭すんのん、こしらいたり (こすりおとすのに作つたり) 茶碗や皿洗うのは へちま作つて そのへちまで、ほいてして (そうして) へちまの茎切つとくと (ておくと) へちまから露みたいなものな (のような物が) ぼたぼたと落ちんの おで (るので) へちますい (水) 言うのをビンを受け といて (ておいて) 顔へつげんの、こさえおつたわな (つけるのに作つて居ました)。

へちますい 【名詞】 へちまの茎を切り、切り口から流れる液、化粧水にする へちま参照

へちまてぬげ 【名詞】 タオル ゆうて参照 [会話] 西洋でのぎな (が) はやつて、へちまや (だ) 言うたり、へちまみたいんしとるやんない (のようにしているで

しょう) へちまテヌゲな (が) 流行つて来たんよお (来たのだ) 言うて。

へちや。べちや 【名詞】 鼻の低いこと。不器量な事、又そのさま そのような人 (志 (浜島、鶴方、神明、立神、志島、国府、安乗)、鳥、度、南) [会話] 器量のわりの (悪いのを) へちややなあ (だ) 言うのなあ (です)。へちややなあ。お多福やなあ言うて、器量な (が) わりの、いよおつた (言っていました)。

べつ 【名詞】 区別すること。除くこと。特別にすること。[会話] べつべつ べつん (に) なつて まあ言うて。昔や (は) 月経ん (に) なるとなあ べつん 食いおつたなあ (食べていました)。正月になると、皆 食いのいてなあ (食べ除いて) つね (平常) でも かど (鯉) 舟する家ら ひいなおりた (月経になつた) 言うて、べつん なれ言うてなあ おりんうちん (なる前から) べつん (に) なりおつた (なつて居ました)。納屋い (に) こがいなあ (四斗樽) 竹ですう (實) 編んで べつに、ながしこさえおつたの (作つて居たのです)。

べつか 【名詞】 お世辞 (志、鳥 (答志))

へづけ 【名詞】 舟首で接岸すること。(志 (立神、甲賀)) [会話] 昔や (は) 大島いても (行つても) 舟な (が) ちつちやかつたもんで (小さかつたので) おもて (舟首) つけといて (ておいて) へズケして、よお (よく) 降りおつた (降つて居ました)。

べっこ 【名詞】 鼈甲 べっこうの末尾省略 (上、阿)

へつこい 図々しい へつらう

へっこます 1) へこます 凹ます。へこむようにする。2) やり込めて屈服させる。[会話] ① へっこま言うのは こやつてこおするやんか (こうして押さえるでしよう)、此処 低つくなつてくやんか (低くなつて行くでしよう)。へっこンデタなあ (で行つた) 言うて くぼんでくの (行くのを) なんやかや ふくろん どんのお (膨れて居るのを) こやつて (こうして) へすやんな (押さえるでしよう) へっこンデタヨオ (行つた) 言うの (のです)。くぼんだとこ (所) を水溜りな (の) とこな (所が) 有ると あそこ へこんどるなあ (で居る) とか。引き退つて行くのを わしら (私達) へこんデおるわい (居ます) 言うて でしゃばらんと (ずに) すま (隅) の方でおんの (居るのを)。へっこマス言うなだ (のは) わがとらな (自分が) ふくろん どんのお (膨れて居るのを) こやつて (押さえて) へっこんどるよおに (で居る) する言う事や (です)。すまっこ (隅) の方に ひつ込んど

んのおと (で居るのと) 反対に こんだ (今度は) 相手すま (隅) の方へ追いつめてく (て行く)。

へっこむ【自マ五】 1) 引き退る。へっこます参照 (員、上、阿、張) 2) 凹んで居る。(志 (鶴方、神明、立神、国府、安乗)、鳥 (加茂)、桑市、員、三、鈴市、鈴郡、一、松、多、上、阿、張、名、度、伊、北、尾、南、熊)

へっこめとけ【他マ下一】 ひっこめておけ 下げて低くしておけ、一度出したものをもとに戻す とけ、しておけ [会話] ダンプ (ランプ) をなあ ちよいと、きつうすると (少し強くすると) 油煙な (が) 出て来るやんない (でしょう)。そやもんで (それで) もおちよいと (少し) へっこメトケ言うてなあ。

へっこめる 1) 下げる 引き下げる 宴席などの料理の残りを下げる。引き込む。 2) ランプの芯などを小さくする [会話] ²⁾ ひよおそく言うて プリキののおで (ので)、まるくたい (丸い) 上ん (に) ちよびんと口な (が) 有って、口へ としみ (燈芯) 通して あかりを へっこメルもんな (物が) 有って。

へっこんでた へこんだ 窪んで行った

へっこんどる 凹んでいる。くぼんでいる。[会話] へっコンドルまあ そやあれ (それ) 言うて、押ししたると (てやると) へっこんでくやんない (で行くでしょう) くぼんどんのおを (で居るのを)。

へっこんどれ 引込んで居れ 出てくるな [会話] なんやかや出しや張ると へっコンドル言うて、側から 口出しすると 口出しせんと (せずに) へっコンドル言うて。

べっそお (べっそう、べっさう) (別荘)【名詞】 離れた地に有る別屋から転じて牢獄、監獄 (上、阿)

べった【副詞】 1) 一面に広がって居るさま。粘りつくさま。尻をつけて座るさま。べつたりに同じ。2) いつも、終始 (三重県)

へったくさ。へったくそ (下手糞)【名詞】 下手を強めて、けなして言う 技術などの非常にまずい事 又そのさま そのような人 へたくさ参照 (上、阿) [会話] へったくさ言うて、あや (あれは) ものすごおごおなわいた (大変腹が立った) 時 あげん言うんやろなあ (あんなに言うのでしょう)。へたくそよ (奴) 言うのを へったくさ。なんやら (何か) 気に入らん (入らない) 事すると、そげん (そんなに) 言うて おこんのなあ (怒るのです) へったくさ言うて ものすごお (く) 腹な (が) 立つとる (て居る) 時ん (に) 言うのなあ (のです)。

へったくれ【名詞】 かえり見るに価しない物、者 (志 (布施田)、員)

べつたり【副詞】 1) 一面 隙間なく どこもかも (桑市、三) 2) もの事に浸りきるさま さんまい 3) いつも 始終 (松) [会話] ¹⁾ 一面に付いとんのおをなあ (て居るのを)、べつたり言うのなあ (のです)。隙間無しに、荒布な (が) べつたり生えとる (て居る) とか言う (言います)。隙間無しに 生えとる言う事を べつた、べつた しとんねよお (して居るのだ) 言うて。²⁾ 男と女が べつたりひっついて 此れも 隙間の無しん (に) 人な (が) おろと (おろうと) なつとしよおと (どうしよう) 人の事は かまわんと (構わずに) ひっつききって ふたんな (二人が) いちやいちやしとるやんない (して居るでしょう)、それを言うやんかい (言うのです)。べたべたとまあ言うて。³⁾ も一つ べつたり家ん (に) おって どっこも行かせん (何処へも行かない) とか。べつたり座とる (て居る) 言うのなあ (のです)。羽根広げて (足を開いて) こやって (こうして) 両方の足を ひっちゃけて (開いて) 座とるやんない (て居るでしょう)、べつたり座とんなあ (て居る) 言うのなあ (のです)。正座せんと (せずに) 尻を畳むいて (向けて) どんと落として ぺたんとして 足は両方ながら (とも) とんび (薦) の羽根広げたよおんしとるやんない (ようにして居るでしょう)。それを べたずわりして言うて。あのひた (人は) べつたり八幡さんへ 行とんねよって (行って居るのだから) 八幡さんへ行て見よえ (見なさい) 言うて、年中 (いつも) 言う事なあ (です)。べつたり言うな (のは) 時間言うたり (言ったり) 広さ言うたり ひっついて間が無い事言うたり。

べったんこ【形容詞】【副詞】 潰れて平になった状態

へっちら【形容詞】 1) 平気である 気にしない 2) 簡単だ(上、阿、南)

へっちらこい【形容詞】 図々しい 厚かましい

へつつい (へつつい)【名詞】 籠、へつヒ (籠之霊) の転 へつイの音便 (大言海)

へつつらこい 1) しつこい 執念深い 2) おべっかが多い

へつてく 減っていく 少なくなる [用例] ぜんな (銭が) へつてくと心細いわい (です)。

べつと ずぶ濡れで粘りつくさま

べつとお【名詞】 北東の風 (志 (浜島、磯部、志島、波切、片田、鶴方、神明、立神、国府)、鳥 (鳥、答志、

小浜、安楽島、神島、加茂、今浦、国崎)、度(二見) [会話] ベットオカゼ言うのなあ (のです)。北東、東北、こっちゃか (こちらですか)、いなさが東南 まぜもとは こっちゃなあ (こちらです、南) いなさもとから雨たもれ (給われ) 言うやんかい (言います) 東と南のあいや (間です) いなさ言うたら。ベットオゴチ言うな もおちよいと (少し) 東によっとんの (寄って居るのです)。

べっとおかぜ 【名詞】 東北北の風—北北東 ベットお参照 (志、鳥)

べっとおごち 【名詞】 東北の風—北東 ベットお参照 (志、鳥)

べつとべと 1) まみれて居る様子 2) 濡れて居る様子 3) 粘りつくさま

へづな (舳網) 【名詞】 船を連ねるため 舳前におく綱 [会話] 表 (船首) の綱 へづな。錨やって (入れて) へづなも、もっと 締めとけよお (ておけ) 言うて 舟首に有る綱。

べつなべ (別鍋) 【名詞】 一家族のなかで特定の人だけ食べる飯 [会話] ベツナベ言うのは 家内 (家族) のおより (以外に) 別に炊くやんな (でしょう) そんで (それで) ベツナベ言うの (のです)。昔は 芋や麦ばつかの飯やったやんな (だったでしょう)。そすと (すると) おびやいた (産屋、出産行った) とか、病氣しとる (して居る) とか言う時 別に ゆきひら (深い土鍋) で 炊きおったやんか (炊いて居たで有りませんか)。そお言うの ベツナベ言うのなあ (のです)。だんなし (旦那衆、資産家) の家では 子供や (とか) かか (妻) は わりもん (悪い物) 食べても、とおさん (父、主人) だけは ベツナベして食べとる (て居る) 家な (が) 有りおったわい (有りました)。ベツナベ炊く時は、病人とか、おびや (産婦) とか 旦那し (旦那衆) で、年寄や (とか) なんや (なんとか) 別に言う意味やなしん (でなくて) 体の弱い人を、ほれから (それから) 旦那し (衆) で まづいのおを (のを) 食べたのおて (無くて) 俺は大将やよってん (だから) ベツナベしておこきな (なければ) 言う人も有るやろし (でしょうし)、したらな (してやらなければ) おもて (思って) する家も有るやろし、そお言う 仕切り (習慣、しきたり) になって、男の人はベツナベして食わす (食べさせる) 家も有るし すくって とり飯して 食べん (る) のも有るしなあ (有ります)。

べつに 【副詞】 特に 特別に 後に打消しの語が続く

[会話] ベツニ なつともねえわれ (なんとも無いです) 言うてなあ、話する時んなあ (に)、なんやかや (いろいろ) どおかい (どうですか) こおかい (こうですか) 言うて ベツニ言うて 特別に変わった事無い言うのをなあ。

べつになった 1) 離婚した べつになった参照 2) 分家した

べつになる 1) 離婚する 2) 分家する

べつばら (別腹) 【名詞】 1) 食事の後、美味なる物が有ると更に食べる事 2) 父を同じくして母の違う兄弟 (後妻、妾の子)

へっぴりごし 【名詞】 及び腰 落ちつきや自信の無い腰つき (志 (布施田))

べっぴん (別嬪) 【名詞】 美しい女性 美人 [会話] ベッピンやなあ (だ) 言うて 器量のええ (よい) のを、あのおなが (女は) ベッピンやなあ 言うて。子供でも 器量のええ子見ると ベッピンさんやなあ 言うて そすと 嬉こんでなあ 子供らな (だ) にここにこ。

べっぴんいと 【名詞】 木綿糸の一種 [会話] ベッピンイト言うな (のは) 今し (今) の ガス糸言うんかい なあ (のでしょうか) あんでなあ (あれで)。

べっぺ 【名詞】 汚れた物 汚い物 幼児語 (志 (布施田)) [会話] べっぺ言うのは 汚い事をなあ (です) 子供らをおいとて (子守して居て) 土なぶつたり すると そやまあ (それは) べっぺやんかあ (だ) 言うて 汚い物の事を 土とか砂とか 汚れた事を そや (それは) べっぺや (だ) 言うて。

べっぺ 【名詞】 上前 べっぺはね参照

べっぺえそつ 【名詞】 べっぺえ卒 新兵 [会話] へえたい (兵隊) でも、一番下のもな (者は) べっぺエソツや (だ) 言うやんないなあ (言うでしょう)、新兵を入れてすぐのおを (のを) あや (彼は) まだ べっぺエソツやもんなあ (だから) 言うて。

べっぺはね 【名詞】 人の上前を撥ねる人 かすりを取る人 [会話] べっぺハネ 頭はねる事なあ。べっぺはねて、今日は 五十円つ当んね (配当が有るのだ) 言うのを、五円べっぺしよお (しよう) 思うとなあ 四十五円 はろて (拂って)、五円つ べっぺ取って あや (彼は) 五円べっぺ取ったんどお (取ったのだ) べっぺハネん (る) の 名人やどお (だぞ) 言うて。べっぺ言うのは うわまえ べっぺハネ言うのは うわまえはねる人。

べっぺはねる 上前をはねる [会話] べっぺハネル

上前はねるのなあ (のです)、五十銭でこおたもん (買った物) 八十銭で 売るとか。

へづめる 減らす 削除する (志)

べつもん 【名詞】 別の物 (者) 仲間外れ (志 (神明、甲賀))

へつらい 【形容詞】 凶々しい (志 (神明、志島)) [会話] ヘツラコイなあ (のだ) あの人は言うな (のは)、なんも (少しも) えんりよせんと (遠慮せずに) ヘツラコオテ (かくて) 言うなあ (言います)。なんも えんりよせんと 凶々しい 厚かましい。ほんと (本当に) ヘツラコイなあ あのひた (人は) 言うな (のは) 厚かましい事やわな (です)。

へつる 【他ラ五】 へずるに同じ へつる 古くわ へつる 少し削り取る 減らす ごまかして盗み取る かすめ取る (志 (布施田、鶴方、神明、志島、甲賀、安乗)、上、阿、張、北、南、熊) [会話] ヘツル言うな (のは)、畑のくる (境界) も 隣も有るやんな (でしょう)。ほっと (すると) さいめん (境界) せせて (少しづつ取り込んで) じっきん (すぐに) わしげ (私家) のとこ (所) ヘツテクネ (行くのだ) 言うて言うたり、畑のさいめんを、自分の家ののおにすんのん (のにするのに) わしらげ (私家) の、のを じよつク (いつも) ヘツリに きよおったなあ (来て居た)。まあ 皆 ヘツテクネ、削ってくを (て行く事)。鉋で削って 自分の方へ 皆 寄せてくんやんか (寄せて行くのです)。ヘツテクネ (て行くのです)、そっと (そうすると) くるも無いよおん (に) なつてくの (なつて行くのです)。だんだん (次第に) 削って 自分のもん (物) にしてく (して行く) 言うか、相手のもん へらしてて (へらしていつて) ヘツル言うのなあ (のです)。

べつん 特に 特別に

べつん 1) 分家した 2) 離婚した [会話]

1) まあべつべつんなるや (になりましょう) 言うて、仲間でしとる (している) 事なあ、ベツンナル言うのも有るし。弟と 兄貴となあ あいらもべつんさせな はざんわれ (させなければいけぬ) 言うて、ベツンナンノモ (なるのも) 有るし。親子な (が) べつべつ んなつたんでわれ (なつたそうだ) 言うて 嫁さんらと 一緒ん (に) ならんと 別ん (に) 世帯するよん (ように) なる べつべつ んなつたんでわい、ベツンナツタンてわい (なつたそうだ) 言うて、隠居する事なあ。隠居するか 分家するか それを べつべつ んなる言うのなあ、2) そして 離婚する言うのも ベツ

ンナツク。

べつんも 特に 特別に [会話] きよおだい言うて ベツンモ したし (親しい) 人を言うんやろなあ (言うのでしょうか)。

へと 【名詞】 嘔吐した物 嘔吐 へどに同じ [会話] 食べ過ぎて げえずんのなあ (嘔吐するのを)、へと 吐いた言うて。へと 吐いて 言よおったね (言うて居たのです)。

へど (返吐) (嘔吐) 【名詞】 飲食した物を口から吐きもどす事、又その吐いた汚物 (志 (布施田)) [会話] へど言うのは へど 吐く 言うやんな (でしょう)、嘔吐する、それを へど 吐く 言うのなあ (のです)。猫のへど や言うて (と) 言うて とかきのぜんぎり、かつらまじり (混ぜり)の猫のへど や言うて、とか けを とか き 言うんやんかい (言うのです)、かつら 言うのは 草 や けど なあ (です)。猫は草でもなんでも 食 べる も んで (ので) とか き 食 べ た る やんか (てしまいます)、そ と (すると) へど 吐 く と いろ いろ な (の) も ん な (物が) ま じ と る や ん な (でしょう) そ や も ん で (それだから) そ げ ん (そんなに) 言う の な あ (のです)。

べと 最後 最下位 (志 (御座、布施田、畔名、浜島、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、上、阿、張) [会話] べと 言うのは 一番 けつ (尻) の 事 を 運動 会 出 た や (ら) よ お 走 ら ん で お や (俺は) べと や つ た ん よ お (だつた) 言うて。わ し げ (私家) の 子 は よ お 走 ら ん で (早く走れなくて) べと こ や つ た ん よ お 言うて べと 言う たり べと こ 言う たり 一番 尻 にな つ た 事 を。

べとお、**べとこ** 【名詞】 最下位 最後 ぶり どべ べと参照 (志 (御座、畔名)、上、阿、張)

へどつく 【自力五】 嘔吐する 吐くをつくと言う (松、度)

べとつく 【自力五】 粘り気がある 湿り気がある (志 (布施田)、上、阿) [会話] べと ツク じ と じ と し と る となあ (湿気を帯びると)、べと ツク こ や ま あ、ち よ いと (これは少し) は っ し や げ た ら な は ざ ん わ れ (乾燥させなければ駄目だ) 言うて。濡 れ と る となあ (ていると) ひ い 見 せ た ら と (日に当てると) さ ら っ と なる も ん で (ので) し じ く な (雫が) 垂 れる 程 も し と ら せ ん ね け ど (湿っていないが)、し じ く な 垂 れ ん と お つ て (ずにいて) 湿 つ と る のを な あ (ているのを)、べと ツク 言う て な あ。し た た れ て (湿気を帯びて) 来 て 言う て。海 の 潮 を な あ 日 な (が) 照 る

と かあんとすんねけど (するのだが) ちょいと (少し) 夕方ん (に) になって 日な (が) 陰るとなあ したたれてくんの (湿気を帯びて来ます) しとって (湿気を帯びて) 来て、じとじとしてくんの (来るのです) そすと こや しおたれて (湿気を帯びて) 来て まあ言うて しおもん (潮を含んだ物) 洗わんとおったら (洗わずに居たら) しおたれて 来た言うて。西の風な (が) 吹いとるとなあ (ていいると) さんざりしとんねけど (乾いてしているのだが)、まぜな (南風が) 吹くと びたつとして来てなあ まあ したたりわれ (湿っぽいです) こや (これは) じとじと 言うてなあ。ベタツク言うのは 粘り気な (が) 有る言うのなあ (です) ベトツイテ 気持ちな (が) わりなあ (悪い) 思うもん (物が) 有るしなあ、ベトツイとて (ていても) 又 美味しいもん (物) も有るしなあ。

へとへと 【形容詞】 疲れ切った様 (志 (布施田))

べとべと 【名詞】 【形容詞】 粘るさま 泥まみれになる 湿って居る (志 (布施田)) [会話] べとべと 言うな (のは) べとべと と汚いのな (のが) ねちやねちや と付くやんな (でしょう)、それを べとべと 言うの (のです)。べたべたしとんのおも (して居るのを) 一緒やわい (です) べとべと しとんねよお (して居るのだ) 言うて 飴 を手一杯つけて べとべと しとる (して居る) とか、さと (砂糖) で べとべと しとんね (しているのだ) 言うて そお 言う時に使うのなあ (のです)。きもん (着物) なんかも 雨ん (に) 濡れて べとべとん (に) になったよお言うて しめつとると (ていいると)。

べとべとする うるさい様 まどいつく 男女がたわむれる (南) [会話] べとべと と、なんやかや (いろいろ) 引っ付いて 気持ちな (が) わりわれ (悪いです) えごと (十分に) 日に干きな (なければ) はざんわれ (駄目だ) 言うて。あっちゃい (あちらへ) 行ても 引っ付き、こっちゃい (こちらへ) 行ても 引っ付き するとなあ。おおた 何処い (へ) 行ても、べとべと ヒツツイテ はざんわれ 言うて、其処らな (が) なめなめ (粘るように) したもん (物が) 有ってなあ。仲よおしとると (よくしている) べとべと スル おぞげやなあ (嫌だ) あの人ら 見た無いなあ (見たくない)。あんまり (あまり) べとべと スル のも (するもの) 見たないなあ 言うて。ひとなか (人の中) でも言わんと (言わずに) べとべと スル と。
べとべとになる ずぶ濡れになる。粘々になる。

へなへな 【副詞】 柔弱なさま (志 (布施田)) [会話] へなへな 言うのは 弱こそ (弱虫) の事やなあ (です)。よおおて (弱くて) 今にも倒れそおになってしとんのな (して居るのが) 有るやんない (有るでしょう) へなへな しとんない (して居る) 言うて 弱い事をなあ (です)。

へなんぼ 【名詞】 疣 脂肪腫 丸く小さく柔らかいもの (志) [会話] なんやら (何か) いんぼ みたいなの (疣のような) 出来て来るやんない (でしょう)、それを へなんぼ 言うやんかい (言うのです)。いんぼ や無いんけど (疣で無くて) いんぼ みたよおん (疣のように) してくんねやんかな (して来るのです)、それを へなんぼ 言うのなあ (言うのです)。

べにさしいび 【名詞】 紅をさす時に用いる指 くすり指 第四指 古名 名無指 (員、鈴市、阿、張、名、南)

べにさしゆび 【名詞】 紅をさす時に使用する指 第四指 (志、員、三、亀、安、一、飯、上、阿、張、名、北、尾、南)

べにさす 1) 化粧する (志) 2) 赤くなる

べにつけゆび 【名詞】 べにさしいび 第四指 (志、上)

へのかっぱ (屁の河童) 何でも無い事 簡単にやっつてのける事 [会話] へノカッパ、あいなもん (あんな者) へノカッパ やれ (だ) 言うのは、あいなもん なんやかや 言うたてて (色々と言っても) 平気や (だ) 言うのを言うなあ (言います)。あいらん (あんな奴らに) なんやかや (何彼) 言われたてて (言われても)、なつと (なんとでも) 言われたてて、おら (俺は) 平気やれ (だ) 言う事を へノカッパ。

へこの 【名詞】 陰茎 (志 (浜島) 員、張) [会話] 前の道具 へえ (塀) え むこて (向って) ちんぼ (陰茎) さが らかしとりよ おつてなれ (吊がらして居て)、そやもん で (それで) へノコ 言うて つけたんてわれ (そうだ) 言うて。

へをつっぱりもならん 役に立たない (度、上、阿) [会話] へノツッパリン モナラン 言うて、へえ (屁) のつっぱり、しのくい わいなあ (支柱しにくい) ですから、へえ な (屁が) 見えやせん ねよつて (ない) ですから)、だ な (誰が) へえ (屁) のつっぱり よおするやい (支柱出来ませんか)、へえ のつっぱり や (は) 一番 えらい わい (大変です)。そのへえ (屁) のつっぱり (支柱) よおするにげ な (よくする人間が) あん ねて かい (有るのですか) 言うて。へえ な (屁が) 出 て 来た て (来ても) そのしん のけつ (尻の穴) よお 押 さ え と る かい (よく押さえていますか) 言うてなあ。

おおた なんもならせん (なににもならない) ヘノツツ
パリンモナラセン 言うて、なんもならん (少しも役
に立たない) 事をなあ なんもよおせん (なににも出来
ない) 事を ヘノツツパリンモナラヘン 言うて。

へのり【**船乗**】**【名詞】** 1) 鯉釣り舟のへさきに乗って
釣る一番腕達者の者 (志 (布施田、志島)、北、尾)
2) 魚船の副船頭、又は船頭の代わりをする人 [会
話] 2) かと船 (鯉船) のへのり言うて、船頭な
(が) おらんで (居なくて) 次の人 予備の人を ヘ
ノリなあ (です)。へのりした言うの 違う代りな
(が) 行くと 船頭な (が) 休みで、へのりな (が)
来た言うて、代りの人な (が) 行くと 一番先い (先
へ) 行くのな (が) へのりやんな (でしょう) さいら
(秋刀魚) 取っても 鯉取っても、せんど (船頭) の
次を へのり言うて そいで (それで) せんどな 休
んだりすると そのへのりな (が) こんだ (今度は)
大将すんのなあ (するのです)。へのりして行く言う
て 舟人 (ふねど、夫婦が一組で行く海女) でも 違
うにげな (人間が) 行くと へのりたのでいた 言う
やんな (でしょう)。舟人の人らな (が) 今日 へ
ノリたのでいた (頼んで行った) 言うて、体の調子な
わり (様子が悪い) かったりした時ん (に)、代りの
行く人を へのり、へのりたので とか。1) おや (俺
は) へのりてや (と言え) みよし (船の先の所) の
方い乗とんの (て居るのを) へのり言うんかいなあ
(言うのか) おもた (思いました)。そのなのおも
(のも) 言うけど (が) へのり言うと 代りのにげ
(人間) を へのり。

へばりつく【**自カ五**】張りつく 粘りつく ひつつく
(志 (布施田)、安、上、名) [会話] へバリツイテ
キタ、へバリツイテいごかせん (付いて居て動かない)
言うて ひつついとると (て居ると) ひつつきき
つとる (て居る) 事を言うのなあ (のです)。あの人
へバリツイテ (ていて) 離れやせん (ない) 言うて、
ひつつききつとる事や (です)。なんでも (なにで
も) 乾きついとて (ていて) そや (それ) 乾いて へ
バリツイテタナイ (行った) 言うて、ひつつききつと
る (ている) 事を、へバリツク言うの (のです)。か
んからこ (よく乾いた状態) に なつてくとさいご
(なつて行くと、その時) へバリツイテ取られやせん
われ (取れない) とか言うて、そいな時も (そんな
時) 言うわい (言います)。めえ (若布) 干しとたら
(て居たら) なるい (丸太へ) へバリツイテて (て行
つて) あんまり (あまり) かんからこん なつてくと

(乾いて行くと)。あま海苔採りんいても (に行つて
も) 今頃 採らせん (採りません)、朝の しめりけ
(湿気) のあるおや、ええんけど (時はよいが) こえ
ん (こんなに) てつからかしたと (照りつけると)
かんからこに、なつてて (て行つて) 水かけて しめ
しといてな (ておいては) とりい (採る) する時な有
るわい (有ります)。

へばりつける 張りつける (張)

へばる【**自ラ五**】1) 疲れ果てる へたばる 2) 引つ
つく。(阿、員、鈴市、安、上、名) [会話] 2) へバ
ル へバリツイトンネナ (て居るのだ)、ひつついて
放れやせんのを (放れないのを) へバリツイトテ (て
居て) まあ言うて。あれしてくれ 此れしてくれ言う
て したるわ (してやる) 言う迄、せめてしとんのお
を (して居るのを) へバリツイトテ いごかせん (動
かない) はなれやせんわれ (放れない) 言うて。あ
の人ん (に) へバリツカレテ弱つたよお (困った) 言う
て。ひつこい事を言うんやるなあ (言うのでしょう)。
1) かいだり (だるい疲れた) 時も言うなあ。仕事をい
つしよけんめ (一生懸命) して へバル、へタバル言
うて。へタバル言うのは くたばる事を言うのなあ
(です)。

へび【**名詞**】魚の頰骨の下にある薄い部分 [会話] へ
ビ言うの ほがい (頰骨) の下に うっすういのな
(薄いのが) 有るわい (有ります) ほがいの へらへ
らのとこ (所) に へビな (が) 有つて。へビ言うと
鯉や (とか) なんやの (なんかの) 鰓のとこ (所) の
へらへらなあ (です) あへのびは また 美味しいん
なあ (のです) 歯ざわりな (が) 有つて、美味しいん
てけど (のたと言うけれど) なかなかよお取らんわい
(取れません) 爪で こそげてこな (強く掻いてこな
ければ) はざんの (いけないのです)。

へび【**名詞**】貝類の外套膜の最外側 色の変った所
(志 (布施田)) [会話] 鮑のへび、あへのびや
(は) 美味しいけどなあ (が)、美味しいけど こわ
い (堅い) 鮑のへびや (は)。帆立貝でも 皆 へビ
な (が) 有るやんかなあ (有ります) 貝の 一番外側
についとる (付いている) べらべらしとるのおを (し
ているのを) へび。

へびいちご【**名詞**】野苺 バラ科の多年草。茎は地上を
はい、長さ1m位になる。葉は三出復葉で長い柄が有
り、各小葉は長さ約3cmの倒卵状円形で、縁に粗い
鋸歯が有る。春、葉腋から花柄を出し、その先に小さ
な黄色の5弁花をつける。瘦果は小さく赤色の粒状で

表面に凹凸が有り、球状に膨らんだ花卉の表面に散在する。無毒。(北) [会話] ヘビイチゴ言うのな (のは) 野原に生えとるの (て居るの) ヘビイチゴ、まむしいちご言うのな (のです)。まむしいちごや (だ) 言うて、のいちご あげん (あんなに) 言うの (のです)。ちっちゃい (小さい) 時 まむしいちごやどお (だぞ) 言うて 山桃みたよおな (のような) あっかいねけど (赤いのだが)、裏な、しろおて (が白くて) つぶつぶなついて 潰すと びしゃんとなつてく の (て行くの) こや (これは) まむしいちごや (だ) 言うて。

べべ 【**名詞**】着物を言う幼児語 特に晴着 (志、桑郡、三、鈴郡、多、上、阿、張、名、度、伊、北、尾) [会話] べべ 着物の事 “正月てものは よいものや あっかいべべ着て ちやら履いて 雪より しいろい まま (白い御飯) 食べて だいこ (大根) より ふつと い (太い) 糞たれた” 言うて。

へべれけ 【**形容詞**】ひどく酒に酔って正体を失うさまざまでんでんでん (志 (布施田)) [会話] よおて (酔って) へべれけん (に) なつとる (て居る) 言うて。よおて ぐでぐでしとると (して居ると)、ぐだぐだん (に) なつとる 事を 言うんやわな (言うのです)。船に乗っても げえもおす (嘔吐する) と よおて へべれけやない (だ) 言うて、乗り物に よおた 時でも ぐたぐた して たわい (正体) の無いよおになつてくわな (なつて行きます)。そすと (そうすると) へべれけやなあ (だ) 言うて。

へば 【**形容詞**】下手な事 つたない事 又そのさま そのような人 力が弱い、平凡の略 [会話] へボクタ や (だ) 言うて、なんやかや (何彼) して、わり (悪い、下手な) 事すると、へボクタ 言うて わるう (叱る) 時に よお (よく) 言うわい (言います)。

へばくそ。**へばくた** 【**名詞**】へばに同じ (鳥)

へま 【**形容詞**】**【名詞**】不手限な事 失敗 間が抜けていること (志 (布施田)) [会話] 下手な事した言うの (のを) へま 事した言うの (のです)。間違ごた (がった) 事すん (のするのを) へま した 間違えた 言うて、又 へまやつたよお (してしまった) 言うて 間違う 事を。まちがや (間違えば) 間違う もんだよお そその つめがみ そのまま 置いたら さんごおじ (珊瑚珠) と とり 間違ごおて (がって) 三百三十三匁三分三厘 値をつけた 言うて、さんごおじ 珊瑚な (です) 赤珊瑚な (です)。印度人な (の) きんたま あの茄子売りんいた (に行つた) くらいや (です)。

なすび 売りにやつたら なすびの売り声忘れて、印度人のきんたま 要らないか。せんこ (線香) 売りにやつたなら 線香 売り名を忘れて たて (てしまって) ほときさん (佛さま) の蚊くすべは要りませんか言うて。梅干し売りにやつたれば 梅干し 売り声忘れて おや まさん (女郎) のつめがみ (拭き紙) 要らないか言うて、しゃくし (杓子) 売りにやると 奈良の大仏さんの耳搔きやたら (だとか) 言うて。

へまする 失敗する

へまづら 【**名詞**】厚顔 無恥なこと 図々しいこと [会話] へマツラ やれ (だ) 言うてなあ、なんやかや (いろいろ) 言うても なつと (なんと) 言うても知らん顔してなあ。わがた (自分は)、わり (悪い) 事しておつて なあ (居て) 知らん顔してなあ、なんもしやせん (なにもしない) 顔して すましとんねやん かい (ているのです)。そいなのおを (そんなのを) へマツラ (だ) 言うて。

べや 嫌だ (志、鳥)

へらかず (減) 減らす (員、鈴市、安、阿、張、名、伊) [会話] へラカシトケ (ておけ) 言うて、そや (それは) あんまり (あまり) 多過られ (る) へラシトケ 言うて すくのおせえ (少なくしなさい) 言うのを、へラカス 言うのなあ (です)。人ん (に) くれるもん (物) で おおた こげんよけ (こんなに沢山) くれたん な (くれてやるのは) 勿体無いのん (に) ちよいと (少し) へラカシトコかいな (ておこるか) 言うて 欲な事言うて。

へらこい 【**形容詞**】あつかましい 厚顔 (志 (布施田、片田、神明、立神、志島、甲賀、安乗)、鳥、久、北)

へらこない 【**形容詞**】あつかましい 厚顔 (志 (浜島)、鳥、北) [会話] なんでもくれ (下さい) 言うたり、人の家で よばれたりすると (食事をすると) へらばこや (だ) 言うて 言いおつた (言っていました)。へラコナイナア (のだ) あや (彼は) へらばこ と言うて なんでも くれくれ 言うて 欲しがると へらばこ 言うて 厚かまし (しい) 言う事な (です)。へらばこ で あんなな (彼は) なんでも 欲しねよつて (欲しいのだから) 言うて。

へらずぐち (減ず口) (不減口) 【**名詞**】口答へ 屁理屈 負け惜しみを言うこと [会話] へラズグチ 言うやん かい (言います)、よお (よく) 口答へ なんか すると。口答へする時ん (に)、よけ (あまり) 口答へすんな まあ (するな) 言う時ん (に)、へラズグチ ばっか

(ばかり) たたいて言うやんか。よお 喋つとると
(て居ると)。

へらばこ【名詞】物を欲しがると 図図しい人 [会話]
人らげいいて (他人の家に行って) なんでもくれえ
(なにでも下さい) 言うて 貰うのを へらバコ え
んりよせんと (遠慮せずに)、平気で 物くれ (下さ
い) 言うて 飯食え (食べなさい) 言うても、よば
よかいなあ (頂きましょうか) 言うて、えんりよ な
しん (に) 食うのを (食べるのを) へらバコやよって
ん (だから)。

へり (縁)【名詞】そば 側 あたり 周辺 端 [会
話] 此のふち (縁、端) へりや (だ) とか、畳のへ
りや (だ) とか、うわしき (上敷、上へ敷くもの) の
へりや (だ) とか、ふちの事をへり言うのなあ (ので
す)。へりつけとかな (ておかなければ) ちゃちゃく
れてかれ (ほつれて来る) 言うて。へりも へちも
へたも一緒やなあ (です)。畳な (の) へり よけ
(あまり) 踏むなまあ、へりないたまれ (いたむ、傷
む、傷がつく) 言うて。

へりくつこき【名詞】つまらぬ理屈を言う人、理屈を言
って反抗する人

へりこ (縁)【名詞】へりに同じ 側 端 (鳥、度、
多)

へりごき【名詞】よめがかさ 巻貝 どびごき参照
[会話] どびごき言うな (のは) 島のこび (こびりつ
いているもの)、傘みたよん (のように) なってて
(なっていて) へりゴキや (だ) 言うて。島の潮な
(が) 干ききってても (きっていても) 島の上に波な
(が) 来んとこんおんの (来ない所に居るのです)。

へりだす (放出)【他サ五】体外に出す 子供や卵を生
むことを言う [会話] 卵 へりダス。

へりだす【他サ五】捻出す ひねり出す

へりつける 産卵する (虫、鳥等)

へる (放)【他ラ五】体外へ排出する 垂れる 脱糞
放尿 放屁 出産 ヒル (放) の訛 (広辞苑)
(志 (浜島)) [会話] 屁ひる、屁へル、屁へル言う
のは一番やわい (です)。屁をへっても 臭い仲。屁
へル 糞へル 卵でもへル言うて、犬や猫な (が) 子
へッて、もおける (産む) 言うの (のを) へル言う人
な (が) 有んのなあ (有るのです)。子へッて よけ
(沢山) へッて言うて。猫な (が) 仔よけ (沢山) へ
ッてとか、単な 仔よけ へッてたら (とか) 言うて、
もおけんの (産むのを) へル言うなあ (言います)。
屁へル 糞へル、卵へル言うけど (けれど) しょんべ

(小便) は、へル言うて、よけ言わせん (あまり言
いません)。しょんべたれる (垂れる) 言う。

べろ【名詞】舌または唇 (鳥、桑郡、員、三、四、鈴市、
安、多、上、阿) [会話] 舌のこと ベロ言うて。

べろべろ【名詞】1) 幼児をあやす時舌を出し入れして
べろべろと言う。2) 飴菓子の一種 小さな竹の先に
飴を平くして付けた菓子。舌先で飴をなめる所からか。
べろべろ 舌で何度も舐めるさま [会話] 1) 子供ら
に ベロベロや (だ) 言うてするし、2) 飴もベロベロ
言うのな (のが)、棒、刺して 三角ん (に) して
ベロベロと舐めおったなあ (て居ました)。

べろんべろん【副詞】【形容詞】泥酔状態多、

へん (変)【名詞】異常に事態がおこること。病気が急
に悪化したりすること。またそのため死ぬこと。[会
話] 色な (が) 変わりな (が) 来た言うて、こや
(これは) 色な (が) へんな (が) 来たなあ言うて。
つけもん (漬け物) でも、塩な (が) うつつかったり
(少なかったり) して 味な (が) 落ちて来たなあ言
うのをなあ、ちよいと (少し) へんな (が) 来たなあ
言う時な (が) 有るんなあ (有ります)。おかしいぞ
お言うのを へんやどお (だぞ) へんやなあ (だ) 変
わりかけやなあ (だ) 言うてなあ。病気な (が) 重な
ったのも あや (彼は) へんな (が) 来た言うて、あ
やまあ (彼は) 様子な (が) 変わって来たどお (ぞ)
言うのを、へんな (が) 来たどお あやまあ (彼は)
長いもんや無いわれ (もので無いです) むつかしいわ
れ (難しいぞ) 言う事やろなあ (でしょう)。

…へん【接尾語】【助動詞】しない せん 打消しを表
す (三重県全域)

べん (弁)【名詞】弁舌 話す事 又話しぶり。(伊賀地
方) [会話] 口な (が) よお (よく) 喋ると、あやま
あ (彼は) ベんな (が) よお立つねよって (よく立つ
のだから) 言うて、口な (が) 達者なにげ (人間) を
ベんな (が) 達者でまあ言うて。

べん (紅)【名詞】べにの訛 1) 赤い色 紅、べに
紅花の花弁から取った赤い色素 胭脂 紅色 くれな
い 口紅 或は頬紅 絵具 (志 (甲賀)、鳥 (国崎)、
上、阿、張、名) 2) 食紅 3) 色彩 色のついてい
ること。(志) [会話] 1) べに 口紅 あおベンよ
(奴) 言うて。昔 こらら (子供) わるうのに (叱る、
怒るのに) あほよ (阿呆め) 言うのを あおベンよ言
うて 言いおったんなあ (言って居たのです)。あお
ベンのはてなしや (果て無しめ) 言うて、ベン言う時
はロベン ほおベン (頬紅) も有るし。あおベンも有

るし ³⁾ 色の着いとる (て居る) もん、色 着けるもん (物) 色 つけんのなあ (色つけるのを) ベンヤ (だ) 言うけどなあ (言います)。なんでも (何でも) 塗るとさいご (その時) ベン塗ったよおななあ (だ) 言うし (言います)。

べん (便) 【名詞】 1) 都合のよい事 2) 大、小便、特に大便

…へんか しないか せぬか 行かへんか (上)

へんがき 【名詞】 蜘蛛の巣 へがき参照

へんがくる 病状が急に悪化し臨終が近くなる。へんなくるに同じ (上、阿) [会話] へんガクル言うのは、変りが来る言う事やわいなあ (です)。まあ 変って来た 様子がちごて (違って) 来る言うのなあ、へんナ (が) キタなあ まあ言うてなあ。

べんがたつ、べんなたつ 雄弁で有る。喋る事が上手だ。

…へんかった しなかった (志) [用例] 旅行 行かへんカッタ (行かなかった)。

べんがら 【名詞】 べにがら 赤い色素

べんぎ (便宜) 【名詞】 よいように取り配う事 都合のよいこと [会話] ベンギ ベンギ計れ言うのか (のですか)。あの人にもちよいと (少し) ベンギ計れ言うやんかい (言います)。あの人にもベンギ計たらなはざんわれ (てやらなければいけない) 言うやんかい。なんやかやを ちよいとまにあわしたれ (少し役にたつてやれ) とか。あの人まあ なんや (何か) 無いんてわれ (無いそうだ) ちよいと あの人にベンギ計たられ (てやれ) 言うて、物を借してやれとか。ちよいと きいつけたれ (気をつけてやれとか)、お金をちよつと (少し) やれとか 言う事を言うんやんか (言うのです) ベンギ計れ言うな (のは)。

べんきょ 【名詞】 勉強 (多、伊) [会話] 五月の節句 菖蒲 鉢巻きんして (にして) しらめ (虱) の口な (が) いがんでくよおん (歪んでいくように) 頭な (が) やめんよおん (痛まないように) ベンキョもよお (よく) 出来るよおん (ように) 言うて。

べんきよする 値引きする。勉強する。

へんくつ (偏屈) 【名詞】 性質がかたより それに執着すること。頑固で片意地なこと又そのさま かたくな (南)

へんくつじん 【名詞】 へんくつな人 [会話] へんクツジンやなあ (だ) 言うて、あんまり (あまり) 人より変った事する にぎやなあ (人間は)、へんコツジン。人のする事 汚のおて (なくて) わがと (自分が) する事 ま どいな (どんな) 事しても 綺麗で、

あいなのおわ (あんなのは) ひとなかい (人の集まる所へ) 行くと 嫌られるわい (ます)。なつともしよな (なんとも仕方が) 無い、わがと 一人おる時や (は) ええけど (よいが) やんない (でしょう)。

べんけいなかし 【名詞】 下腿の前面 弁慶の泣き所

べんけいのなきどころ (弁慶の泣き所) 下腿の前面 (伊) [会話] かみそりぼね (脛骨) これ打つと いと おて (痛くて) ベンケイナカシ。ベンケイノナキドコロ。どこやら (何処か) の髪を ベンケイナカシヤ (泣かせた) 言うやんかい (言います)。引っ張ると痛いのおで (ので) 弁慶さんな (が) 泣くね (泣くの) だ 言うて、かみそり骨 (脛骨) でも ベンケイナカシヤ (と) 言うて。

べんこう (弁口) 【名詞】 口のきき方 又口が達者な事、弁舌が巧な事又そのさま べん参照 (志 (布施田)) [会話] あのひた (人は) ベンコオな (が) ええなあ (よい) 言うやんかい (言います)。喋るの上手な人を。

へんこつ 【名詞】 偏屈 性質のかたよって居ること (三、北)

へんこつじん 【名詞】 性格がかたよって居る人 へんくつな人 へんくつじん参照

べんさしいび、べんさしゆび 【名詞】 薬指 べにさしゆびに同じ (三、上、阿、張、名) [会話] ベンサシイビ、こして (こうして) 口紅しいおつたなあ (して居ました)。薬指やなあ (です)。そして指言わんと (言わずに) いびや おやいび (親指) こやいび (小指)。

へんじ (変事) 【名詞】 変った出来事 死亡 [会話] わり (悪い) 事な (が) 起こって来ると へんじな (が) 起こった。へんじ言う時は なんか (なにか) 変った、わり (悪い) よおな事な (が) くねななあ (来るのだなあ) 言うて。

べんし (弁士) 【名詞】 よく喋る人 (張) [会話] 活動の ベンシやなあ (です)、演説したりする人も ベンシ。弁のよお (よく) 立つ人を あのひた (人は) ベンシやなあ (だ) 言うて、口演すのん (するの)に 上手な人を ベンシやなあ 言うなあ。

へんしよ 【名詞】 ひがみ 嫉妬 へんしょう 偏小 偏少 せまく小さい事 せまい事 へんしよもん へんしよばら へんしよする (志 (磯部、浜島、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)) [会話] へんシヨ、へんシヨバラ起こして言うて。わしな (私が) 此の人に小母さんばつか (ばかり) 言うて、小母さん

と 親しい(く) しとると (して居ると)、隣の人な(が) あればっか (彼女ばかり) 言うて やきもちして 怒って そいなのおを (そんなのを) ヘンショバラ。ヘンショバラ起こして言うやんな (でしょう)。ひがんどる (で居る) 言うて、ひがみこんじよ (根性) 言うなあ (言います) ひがみこんじよの ヘンショバラ言うの (のです)。ヘンショ ヘンショバラ言うの (のを) よお (よく) 言うやんかい (言います)。ヘンショバラ起こしてまあ 言うて。焼餅焼くよおなのおやんかい (のです)。ヘンショ ヘンショバラ言うて。子供らな (が) 下のこお (子) が出来ると、上の子が かあさん (母親) をなあ ヘンショおおこしてわがとな (の) もん (もの) にしょお言うて、そいなよおな事を ヘンショバラや (だ) 言うね (のです)。かあさんを弟ん(に) 取られたる (てやる) 言うて、わがと、かあさんな (の) とこん (所に) むしりつき 歩くのん (のを) ヘンショおこしてまあ 言うて。

べんしょ 【名詞】 べんしょお、弁償 他人に損害を与えた時それをつぐなうこと [会話] ベンショせえよお (しなさい)。なんか、うちやっただ (なにか壊してしまった) 代り こさえて (作って) やるとか ぜん (銭) 出すとかするとなあ。がっこ (学校) のガラス うちやっただ (壊してしまって) ベンショせなはざんわれ (しなければいけない) 言うてなあ。ベンショウ言わんと(言わずに) ベンショせなはざん 言うて 引っ張つたらせんね (ていないのです)。

べんじよ (便所) 【名詞】 大便(志) [会話] 大便の事を ベンジョにおられやせんね (出ないのだ) 言うてはこな出やせんね (大便が出ないのだ) 言うのを、ベンジョん (に) おられん言うて。大便な (が) 出やせん (出ない) 言うのを、ふんづまりな (が) しとんね てわれ (しているそうだ) 言うて、便秘しとる (している) 事をなあ。しぼり腹で、気持ちわり (悪い) 言うて ベンジョも シャツと くだらんと (らずに) ちびちびと なめみたいなの (粘液のようなのを) すんの (します)。

へんじよおこんごお (へんじょうこんごう、へんぜうこんがう) (遍照金剛) 【名詞】 いろんな事をつべこべ言う。くどくど言う事 へんじょうこんごう 大日如来の別名 その光があまめく世界を照しその存在は金剛のように堅固で有る事から。(志(布施田、志島、甲賀)、北、熊) [会話] 南無大師 ヘンジョオコングオ。ぶつぶつと なんやかや (何彼) 小言よけ (沢山) 言うと ヘンジョオコングオ よけ (沢山) 言う

て うるさいなあ言うて。お経はよけ (沢山) 言うよつて (から) それん (に) 例えてあんねやろのお (有るのでしよう) お経、言うたよおな事ばっか (ばかり) 言うやんかい (言います)。ヘンジョオコングオ南無大師遍照金剛言うて 言うたよおな事ばっか (ばかり) 言うとるやんな (言つて居るでしょう)。そやもんで (それで) 小言言うて ヘンジョオコングオ ばっか 言うて やかまし (やかましい) うるさいなあ言うて。

べんじよがみ (便所紙) 【名詞】 大便後に尻をふく紙[会話] 尻拭き紙 ベンジョガミ。新聞か雑誌か 藁か。昔や (は) しんぶんがみ (古新聞) も 無いし、雑誌や (だ) 言うて そんげん (そんなに) よけ取らせん し (沢山取らないし)、藁 や (です)。“畑 (へ) 行くと、菜の葉でけつ (尻) を拭いとつた (ていた) 姉さんも 今は とおきよ (東京) の花魁じゃ無いか、花魁にしては 愛が無し 下男にしては樋は無し 淫乱にしては ちよと (少し) さしよが (させようが) 足らんで無いか” 花魁は愛嬌よおして (よくして) お客を連れ込まなはざんのん (なければいけないのに) 愛嬌もよおせんねやろなあ (出来ないのでしょうか)。田舎から 行たばかやもんで (ばかりなので)。下男にしては 樋がなし言うのは、下男は頭 樋みたよん (のように) さげなはざんやんない (さげなければいけないでしょう)。間無しん (に) つちべえ (地面)、頭 すりつけるもんで (ので) 頭も さげやせんしだ (下げないし) よおせんもんで (出来ないの) 言うんやろなあ (の) でしょう)。お客さん扱うの下手なかつたんやろん (で有ったのでしょうか)。

へんしよする 嫉妬する へんしよ参照 (志(磯部、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗))

べんじよにおられん。べんじよんおられん 通じが無い。便秘して居る。[会話] ベンジョニオラレン (居れない) 言うのは、便秘。便秘しとる (して居る) 事を。かつたい (堅い) のを、よおなしぎつてまあ (用がつかえる) 言うて、よお言うやんかい (よく言います)。ほいて (そうして) なんやかや (何彼) 出すの (の) に ちよいちよい (少しずつ) 出すと しぎりだして言うやんな (言うでしょう)。ひとと時ん (一度に) どんと出さんと (出さずに) ちよいちよい 出して来ると あやまあ (あれは) しぎり出して、便秘しとる かして (して居ると思へて) 言うて。惜しみ出して ちよいちよいつ 出してくのを (来るのを) しぎり出してや (と) 言うて。

べんじょのつかいぜん【名詞】 大便した後尻をふく藁
[会話] 藁のすくで (藁袴) 尻ふきなあ (です)。鎌
で20cm位ん (に) 切っていて (ておいて) からげて
(束ねて) 家い (に) 持て来て (持って来て)、ベン
ジョノツカイゼンに入れおったね (て居たのです)。

へんしよもん【名詞】 やきもちやき ひがみや

へんしよばら【名詞】 嫉妬 ひがみ へんしよに同じ参
照 [会話] へんしよバラおこして まあ言うて。わ
しと (私と) あんたと (貴方と) 話しとると (してい
ると)、横ん (に) おる人な (が) わがとらばっか
(自分達ばかり) ふたんな (二人が) あげん内緒して
言うと、へんしよバラおこして言うて。へんしよバラ
言うのも へんしよ言うのも 一緒や (です)。あれ
(彼) と 仲よおしとるもんで (ようしているの)
あんな (彼が) へんしよおこして 怒ってふんとして
行たね (行ったのだ) 言うて、嫉妬と一緒やわい (で
す)。

べんじる【他ザ上一】 述べたてる 言う 弁ずる [会
話] 喋る。お喋の事かい (ですか)。のべたてる ま
くしたる あや (彼は) お喋やなあ (だ)、お喋でよ
お (よく) 喋くる こおやなあ (子だ) 言うてなあ、
べんじル言うのも 一緒みたよな (のような) 事やな
あ (です) 喋る事をべんじル。

へんじん (変人)【名詞】 変り者 偏屈な人 (張)

へんずり【名詞】 男子の手淫 せんずり千摺り 手淫
自慰 (志 (鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安
乗)、鳥 (鳥羽)、松、張) [会話] “世の中にへんズ
リ程 重宝なものは無い。浮名は立たず 子は出来ず
締めつ 緩めつ 手ごころに有り” 言うてするやんか
(します)。へんズリカキな (が) よお言うやんか
(よく言います)。昔の人ら へんズリカキや (だ)
言うて ちよいとすると (すぐに) 言いおったわい
(言っていました)。

へんずりかき【名詞】 手淫をすること またその人
[会話] “七つ八つかあら へんズリカアキ なあろ
て (習って) 今しや (は) 忘れて ほにさ 色ばあ
かり” 昔や (は) よお (よく) へんズリカキや (だ)
言よおったけど (言って居たが)、“へんずりは 浅瀬
の川 渡し舟 さわ (竿) を手に持ち かわ (川、
皮) をあちこち”。浅瀬の川の渡し舟言うてなあ さ
わ (竿) を持って、川をあち、こちと舟でするやんな
い (でしょう)、そやもんで (それで) へんずりは浅
瀬の川の渡し舟 さわ (竿) を手に持ちかわ (川、
皮) をあちこち言うて 男な (が) 自分で皮をあちこ

ちするだけや (です)。

へんずりごし【名詞】 へっぱり腰

べんずる (弁)【他サ変】 言う 述べる べんじる

べんぜつ (弁舌)【名詞】 1) ものを言う事 ものの言
い方 話ぶり 2) 講演 [会話] ① べんぜつ言うや
んかい (言います)、喋ん (る) のを、喋る人をなあ。
べんぜつな (が) あんねてわれ (有るそうだ)、べ
んぜつな (が) うまいんてわれ (上手だそうだ) 言うて
なあ。今日は べんぜつな (が) あんね (有るのだ)
言うよつて (から) 聞きんこや (に行きましょう) 言
よおったもんなあ (言って居たものです)。

へんだ 削いだ 薄く削った [会話] うつすう (薄
く) へんだ 言うてなあ、あつついと (厚いと) 煮え
の (に) くいよつて (から)、うつすう へんだ、炊
けよお (炊きなさい) 言うたり。うつすう (薄く) へ
んだ 食うと美味いわれ (です) やいこおて (柔か
くて) 言うたりなあ、うつすう すん (る) のを へ
げ言うてなあ。

…**へんだ** なかつた しなかつた (志、鳥、四、鈴市、
安、津、一、阿、松、阿、張、名、度、伊、北)

へんたいせえ【名詞】 正常以上に性欲の強いこと、又そ
の人 変態性欲 [会話] あのひた (人は) へんたい
セエやどお (だ) 言うて、色気違いやなあ (です)。
そいな (そんな) 人ら変な事するよつて (から) いろ
きやどお (色気違いだぞ) あや (彼は) 言うて いろ
き言うのも 色気違い。

べんちゃら【名詞】 口先ばかりのお世辞を言って相手に
へつらう事。[会話] 口上手言うと、お前げ (家) み
んなな (皆が) かせんで (稼いで)、金は よれやし
(沢山だ) 言うて そいな (そんな) 事言うと、あや
(あれ) べんちャラ言うて べんちャラ言いやなあ
(です)。口先上手言うて 人おだてるよおな事言う
と、べんちャラ言うてまあ 言うて。

べんちゃらいい【名詞】 心にもなくお世辞を言う者。い
つも人にお世辞を言う者 べんちャら参照 [会話]
上手言う人をなあ、あや (彼は) べんちャライイで言
うて 口な (が) 上手で、嘘もまぜて 嘘やら (か)
ほんとやら (本当か) 判らん事を せんぎり (沢山)
言うて べんちャらな (が) 上手で まああいなにげ
(あんな人間) 好かんわ (嫌だ) おもてなあ (思っ
て)、あんまり (あまり) べんちャら言うにぎや (人
間) 飽きな (が) 来るわい (来ます) 始めのうちや
(間は) 聞いとるけどなあ (ているが)。

べんつう (便通)【名詞】 大便の出ること [会話] べ

ンツウな (が) よおて言うてなあ、つうじな (排便が) よおて (よくて) 言うて、まあ 芋くうたや (食べたら) つうじなよおて ところてん突く位やよお (だ) 言うて。

へんで 削って 薄く削って

…へんでえ しません [用例] おや (俺は) 行かへんデエ (行きません)。

へんでこ【名詞】【形容動詞】 変って居る 変だ (志 (布施田))

へんでつ (変哲)【名詞】 普通と変わっていないこと、またそのさま。[会話] なんのへんてつの無い言うて、変った事な (が) 無い言うのを なんの変りも無い言うのを、へんてつも無い言うねやろなあ (言うのでしょう)。

へんでつもない 特に取り立てて言う程の事もない 有りふれて、つまらない。[会話] へんてつモナイてやら (とか)、とてつもないてやら (とんでも無いとか) 言うなあ (言います)。へんてつモナイ言うな (のは) なんも変つとらせん (少しも、全く変って居ない) 言う事やかなあ (でしょうか)。たいした (大変) 変った事も無い言う事やろけど (だろうが)。

へんど【名詞】 遍路 物もらい 乞食 ろと、どの訛 (張) [会話] へんどな (が) 廻って来て言うて、今しゃ (今は)、そげん (そんなに) 廻って来やせんけど (来ないが)、昔や (は) かどつけ (門付け) まあよおったもんなあ (廻って居ました) へんどさんな (が)。今し (今) でもだ 四国のへんど廻りしとるけど (して居るが) 四国、西国すんの (するのは) へんど姿でなあ (します)。

べんと【名詞】 弁当 (志 (鶴方、神明、立神、国府、安乗)、員、三、鈴郡、鈴市、一、多、上、名、伊)

べんとがら【名詞】 弁当箱 (阿、張、名) [会話] ベントガラは弁当箱の事。べんとぼこ (弁当箱) ベントガラ言うのは、朝鮮の人の (が) 鮎かゝにくる (鮎と交換に来る。かゝ→かえ)。あかがね (赤銅)。しんちゅうがね (真鍮) ニュームのベントガラ言うて、鮎かい (変え) に来よつたんなあ (来て居たのです)。ベントガラ言うて、弁当入れるもんやけど (物だが) ベントガラ言うて、みいで (実、中につまって居る) ベントガラ言いよつたわ (言って居いました)。べんとぼこ言やええのに (言えはいいのに)。

へんどさん【名詞】 遍路さん 物もらい 門付け (志) [会話] 遍路 乞食ん (に) 廻ってくんのを (来るのを) へんどサン ぼえぼえ言うるととなあ

(いろいろ不満を言っていると)、おらげ (俺の家) の隣り へんどサンな (が) 泊まって ぼえぼえ言うとられ (言っている) 言うてなあ。夫婦喧嘩して ぼえぼえ言うるとる時な (が) 有るやんない (有るでしょう)、へんどな (が) 来ると、門い (へ) 立ってなあとなえ (稱) 言うて ぶつさ言うとのを (言っているのを) 例えんねやろなあ (るのでしょうか)。あんまりなあ (あまり) ぼいぼい言う人をなあ どくぶさんみたいん (六部のように) ぶつぶつ言うて おぞげやなあ (嫌だ) 言うて。

べんとぼこ【名詞】 弁当箱 (志 (国府)) [会話] 市い (市場へ) 渡さんと (渡さずに) ベントバコ入れて売りん (に) 行くの (行くのです) 現金な (が) ほしもんで (欲しいので)。

べんとふご【名詞】 弁当箱や着替などを入れる程度の藁で作った小さな容器 (一、度) [会話] ベントフゴ。弁当入れたり、着替え入れたり、山へいたり (行ったり) 磯や、畑い (へ) いたりすんのん (行ったりするのに) ふご負いねとるわい (背負っています)。

べんともち【名詞】 1) 弁当持 弁当を持って勤めに出る人。月給取り 2) 弁当を持って行く事 3) 妻帯者 [会話] 3) 嬢な (が) あんのはなあ (有るのは) ベントモチや (だ) 言うなあ (言います)。あや (彼は) ベントモチやよって (だから) ええけどなれ (よいが) 言うて、嬢な (が) 無いのは うっかり寄せ付けられやせん (られない)。べんとな (弁当が) 無いもな (者は) はざん (いけない) 言うて、結婚しとて (して) 相手の有る事を ベントモチや (だ) 言うのなあ (です)、相手の無いな (のは) べんとなし。おなごばつかのときい (女ばかりの所へ) べんとな (が) 無いもんな (者が) 泊ると、そおゆう事をして来るもんで (ので) がいい (あまり) 信用出来やせん (ない) 言う事やわいなあ (です)。1) 月給どりなあ ベントモチ 月給どや (取りは) 一番またいけどなあ (確かだが)、2) 今日ではまあ 昼 食いん来とると (に來ていると)、だちな (母が) 行かんよって (から) ベントモチで 行こやんかれ (行きましょう) 言うてなあ。まあ ベントモチで 遠足い (に) 行こかたら (行きましょうとか) 言うてなあ。

べんとや【名詞】 弁当屋 注文によって弁当を作って売る店。仕出屋 [会話] べんと (弁当) 売る家 ベントヤ。昼やゆざげ (軽い夕食) の仕度してくれる家 ベントヤや (だ) 言うなあ (言います)。ベントヤい (へ) 行て べんと (弁当) くやええわれ (食べれば

よろしい) 言う時も有るもんなあ (有ります)。

へんなくる 病気が重くなり危篤状態になる へん、変 事態が移り変る 病状が急変する [会話] 病氣な (が) 重なったりした時に 変って来た、変ってくの なあ (変って行くのです) 病氣、へんな (が) キテ、ええ (よい) 口 見せたけど (見せたが) 言うて。ち よつと (少し) 悪りなつて来ると、へんなキテ、あや (あれは) ええ口 見せたんなあ (見せたのだ) 言うて。危篤になった言うか、死んでく (で行く) 前や (だ) とか、そいな (そんな) 時 へんなクル。

べんなたつ 雄弁である [会話] べんなタツ言うな (のは) 口な (が) 達者なんなあ (です)。あの人 べんな (が) タツて なんへでも (何へでも) 間にあう言うて。口な (が) ええ (よい) 言うか 上手言うか 頭なええ言うか 知らんけど (知らないが)、べんなタツて 間にあう人やなあ (だ) 言うけど (言います)。

べんなない 通じが無い 便秘して居る

へんば【名詞】 1) 餅 液体の上などに薄く張った被膜 表面の乾燥状態 (志 (布施田)、多) 2) 蜘蛛の巣 (志 (神明、立神、志島、国府)、安、一、多、上、阿、度、伊) [会話] 1) ちよいと (少し) へんばな (が) 張って来て てがえしせな (手入れしなければ) そのへんばな (が) 皆 棒え ひつついてくやん な (て行くのでしょうか)。

べんびぐすり【名詞】 下剤

べんふる 雄弁に話す 巧な話方ですらすらと述べたてる [会話] べんフル。よお (よく) 喋る事を言うん やわいなあ (言うのです)。気張つてもの言うて い っしよけんめん (一生懸命に) なつて 喋る (る) のをなあ。

へんぺ【名詞】 鮑の規定寸以下のもの。扁平から来た語か [会話] へんぺ言うのは 鮑のちちちやいのおを (小さいのを) へんぺ 鮑の寸 (規格) に たらわん (とどかない) のおを へんぺや (だ)。

へんぺら【名詞】 1) 薄いこと (南) 2) 紙や布の切れ端 3) 小さい鮑 [会話] 3) 鮑のちちちやいのなあ (小さいです) へんぺら。今しや (今は) へんぺらも 獲られやせんしなあ (獲れません)。

べんべらべんと いたずらに時間を過すさま。

ぺんぺんぐさ【名詞】 莢の形が三味線の撥に似て居るので、なずな アブラナ科の二年草、高さ 30 cm 位、葉は羽状に深裂し、根ぎわに密生する。春から初夏にかけ茎頂に総状に多数密集した小さな白い四弁花を開く。

果実は扁平で三味線の撥に似た倒三角形、春の七草の一種。(志、伊、員) [会話] ぺんぺんぐさ言うな (のは) どいな (どんな) 草ど (ですか) ぺんぺんぐさ言うな言うけど (言います)。びんぼぐさ (貧乏草) とは 又 違う ぺんぺんぐさ言うのも 言うけど (言います)。

ぺんぺんご【名詞】 鮒 鯉の幼魚 [会話] 鮒のぺんぺんごや (とか) 鯉のぺんぺんごや (だ) 言うのを 鮒のぺんぺんご ちちちやいの (小さいのを)。

べんべんだらり【副詞】 いたずらに時間を過すさま [会話] はっきりせな (しなければ) いつ迄 そげん (そんなに) べんべんだらりしとて (していて)、む こおいも (相手にも) わりのん (悪いのに) 言うて。嫁 貰らいん (に) 来ても 呉れる 呉れん (呉れない) 言うとると (言っていると) べんべんだらりや (です)。

へんぼお【名詞】 返礼 お返し [会話] れえ (御礼) する事を へんぽおや (だ) 言うて。返し (お返し) の事をなあ。返ししやせんと (返礼しないと)、へんぽおよおせんで (出来なくて) 言うて。なんやかや、もろてもなあ (いろいろ貰つても) その 御礼よおせん事をなあ へんぽおもかやさんと (返さなくて) 言うの (のです)。

へんやへんや【感動詞】 櫓を漕ぐ時の櫓拍子 (志)

へんろ (遍路)【名詞】 物貰い 乞食 へんど参照 (南)